

鶴田町学力向上推進実態調査結果【平成20年度－平成27年度比較】

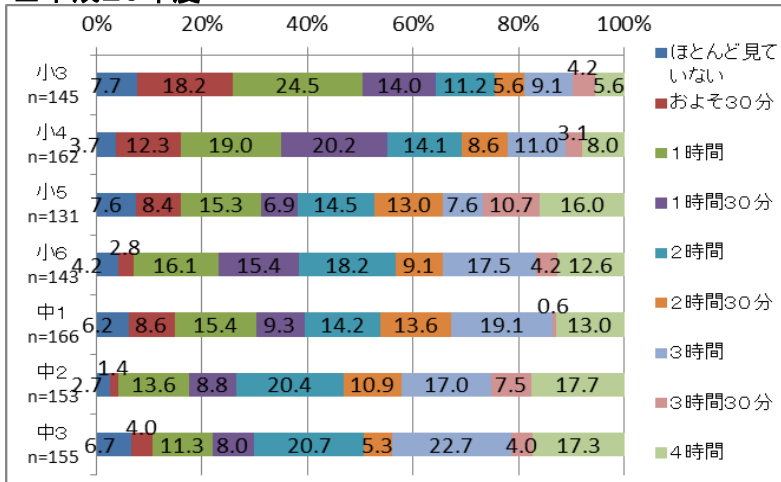
児童生徒用

2 あなたの家での様子について質問します。(1)～(8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

(1) あなたは、学校がある日、1日あたりテレビを何時間くらい見ますか。(ゲーム・スマホ・携帯なども含む)

n=有効回答数

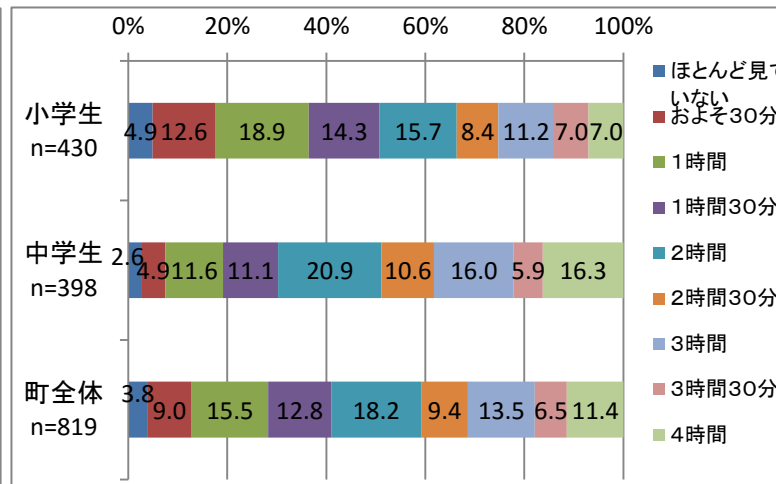
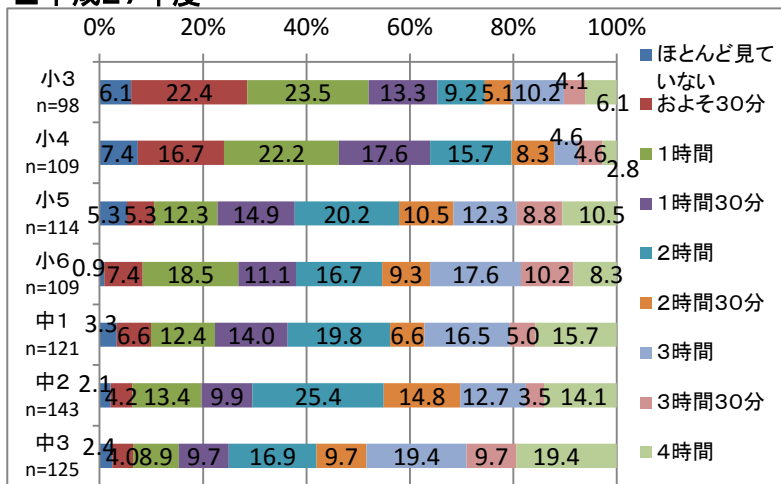
■平成20年度



1日のテレビ視聴等の時間に関しては、

「テレビを見たり、ゲームをしたり、スマホ・携帯を使用する時間」は、7年前とほぼ変化がない。

■平成27年度

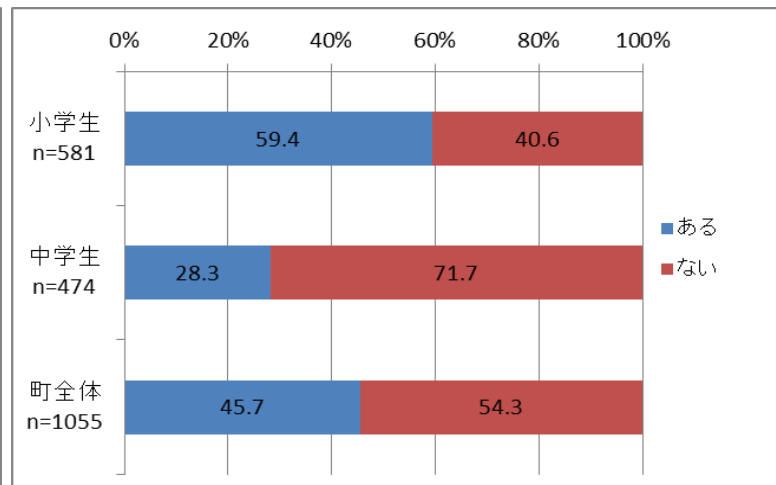
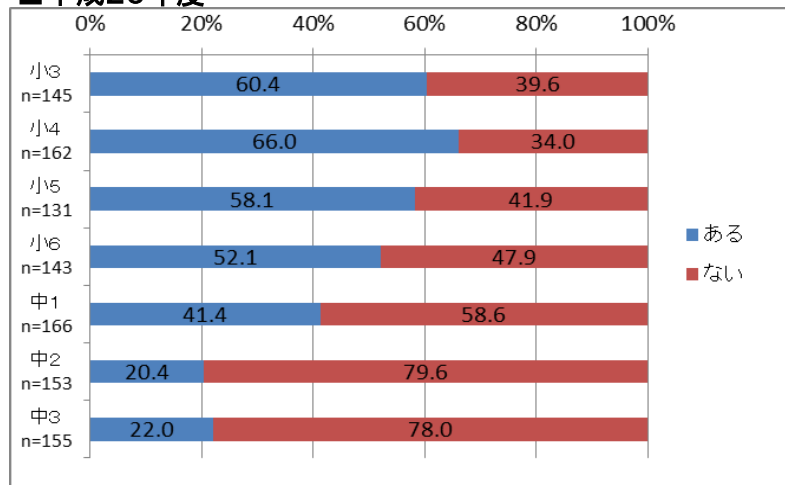


全体的に7年前と大きな変化は見られないが、中学生で「3時間以上」の割合は約4割と大きい。

後問の睡眠時間の減少傾向と合わせると、時間の有効活用が課題と思われる。

(2) あなたの家では、テレビを見たり、ゲームをしたりする時の約束事がありますか。

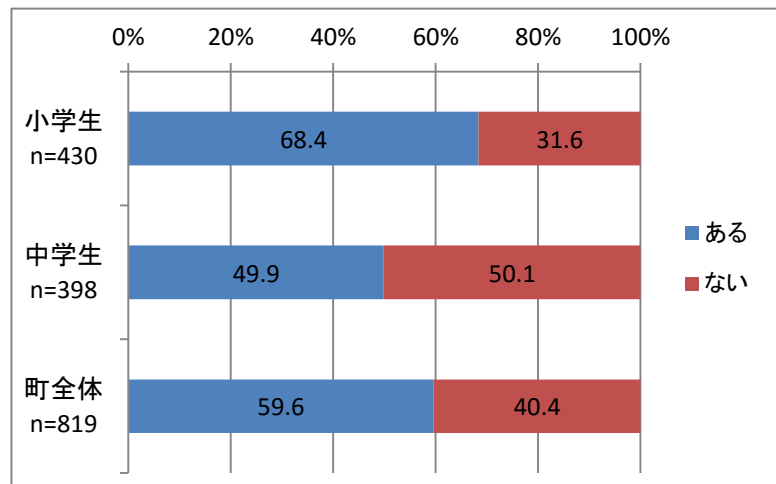
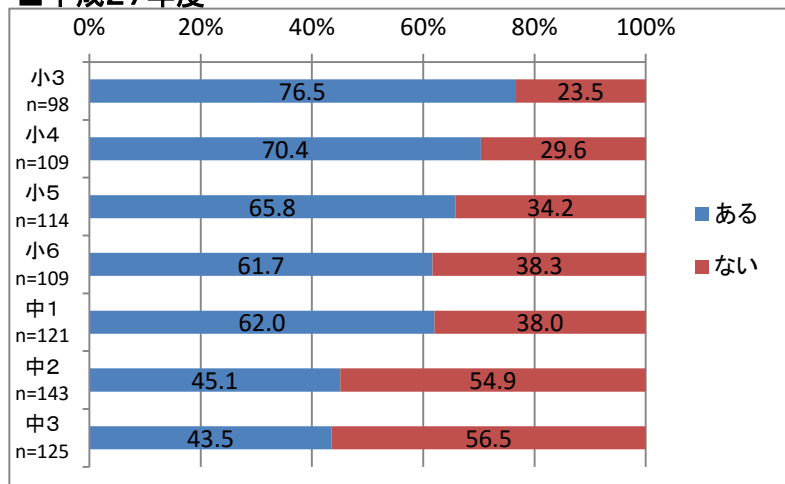
■平成20年度



テレビ視聴等の約束事に
関しては、

テレビを見たり、ゲームをし
たりする時の約束事を決め
ている家庭が増加している。
家庭での意識の高まりが見
られる。

■平成27年度

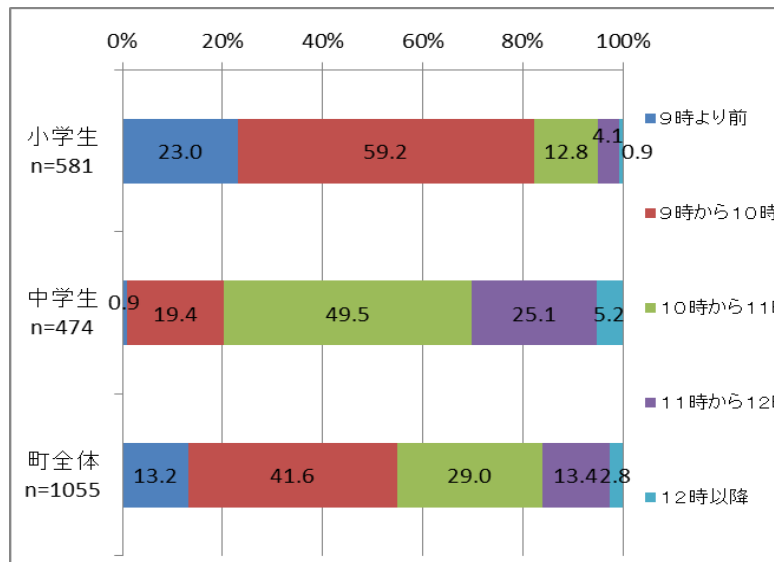
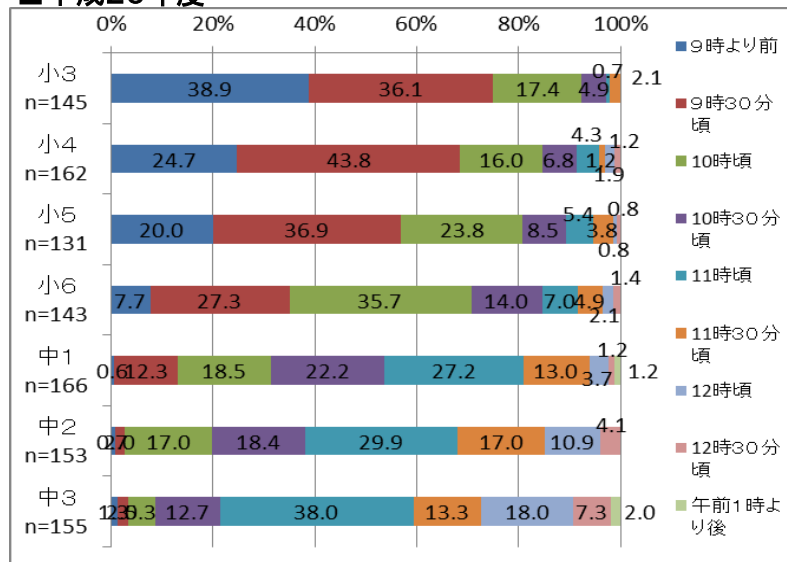


約束事を決めている家庭が
増加しているにもかかわらず、時間の割合に変化がな
いのは、スマホや携帯の使
用(所有者)が増えたことが
考えられる。

約束事のない家庭がまだ
あるため、家族への呼び
かけなど、家庭の意識改
革が課題である。

(3) あなたは、学校がある日、何時ごろねますか。

■平成20年度

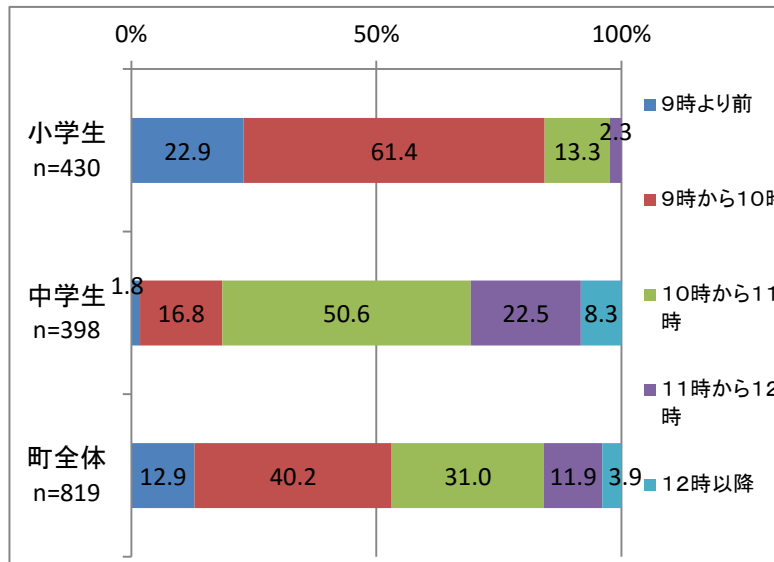
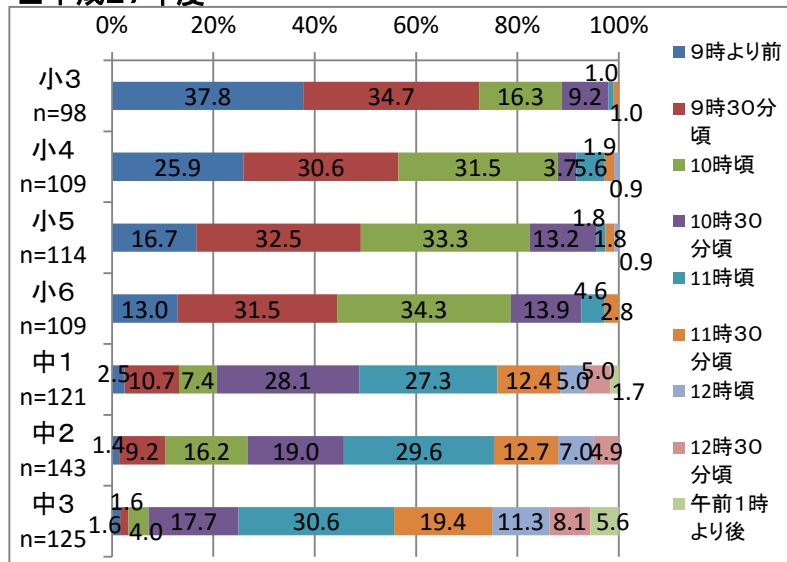


就寝時間に関しては、

小学生は、10時以降に寝る割合が減少し、早めに寝るようになっている。

12時以降に寝る中学生が増加していることが心配である。

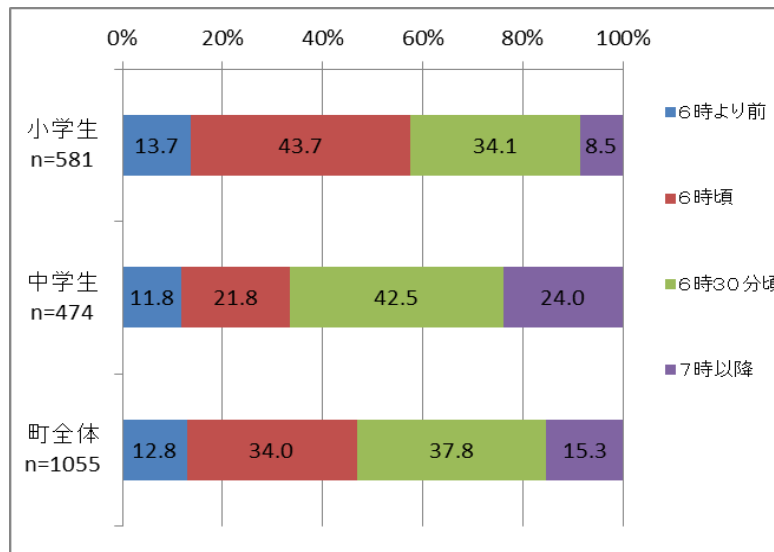
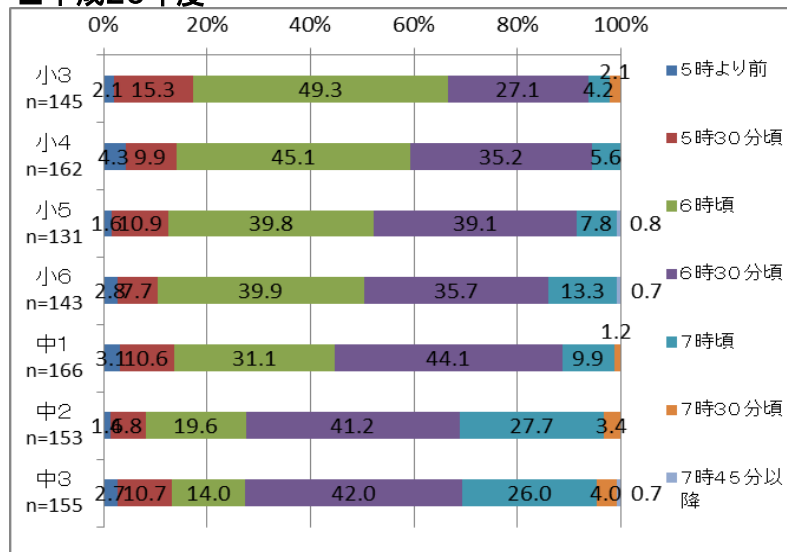
■平成27年度



後問の睡眠時間の減少傾向と合わせると、中学生においては、起きている間の計画的な有効活用や、基本的な生活習慣を身につけさせることが課題である。

(4) あなたは、学校がある日、何時ごろ起きますか。

■平成20年度

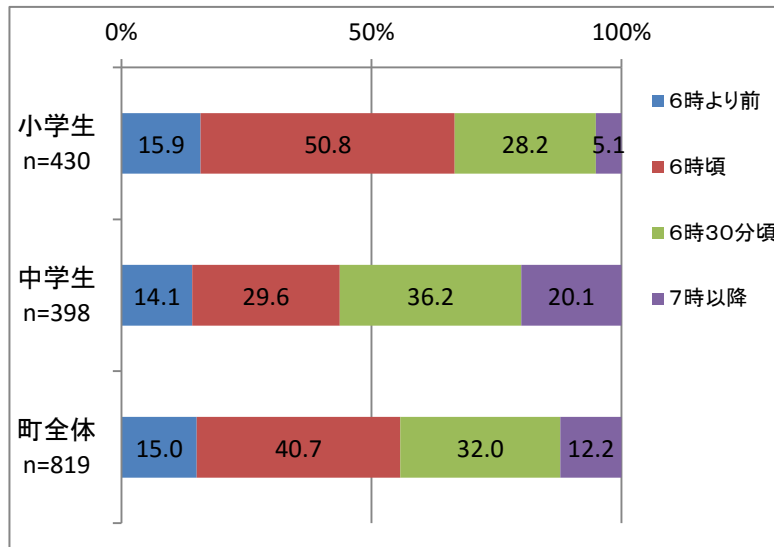
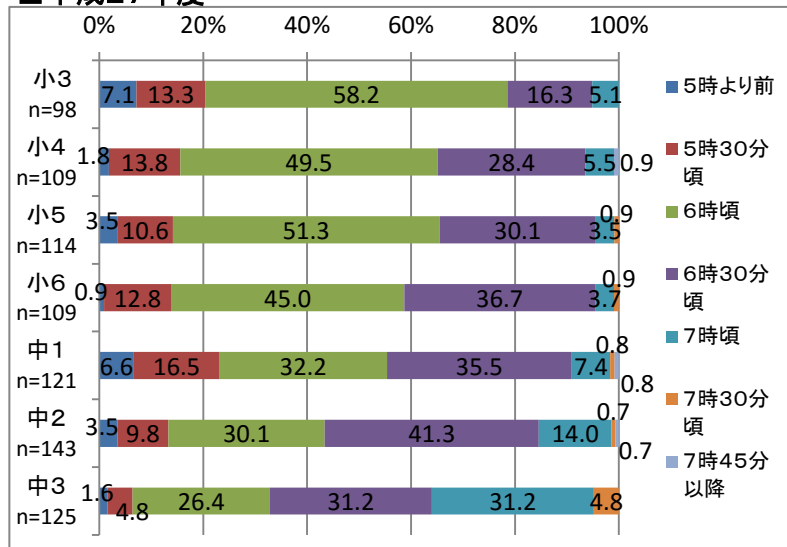


起床時間に関しては、

全体的に7年前より早起きになっている。

特に小学3年生は約8割の子が6時に起きようになっている。

■平成27年度

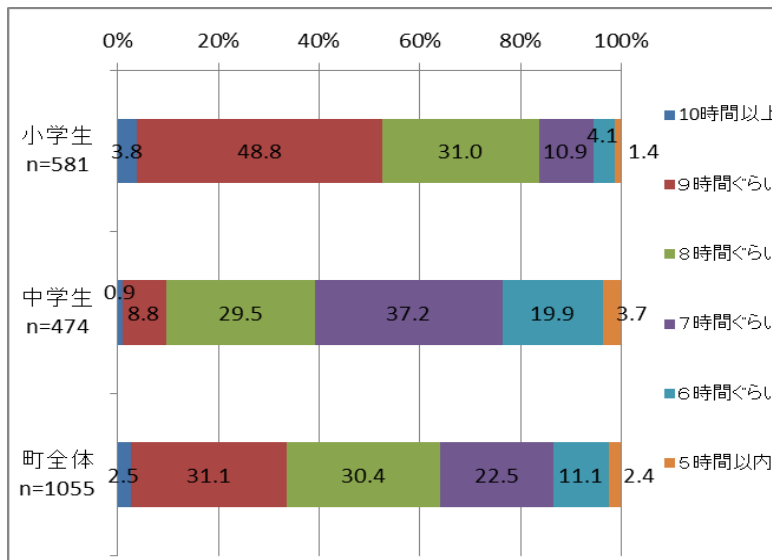
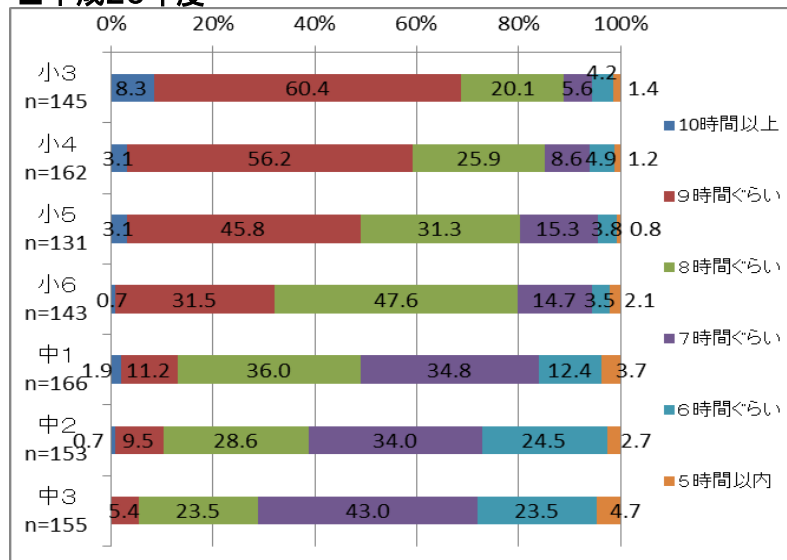


小学生・中学生ともに、早起きが定着しつつあり、良い傾向にある。

中学生に限れば、前問のおそね遅寝増加や後問の睡眠時間減少など、心配な面がある。

(5) あなたは、学校がある日、1日に何時間くらい眠っていますか。

■平成20年度



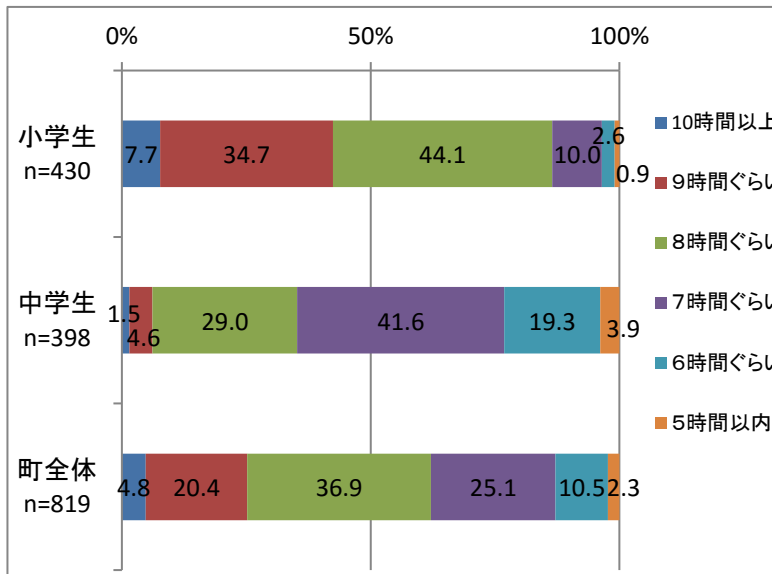
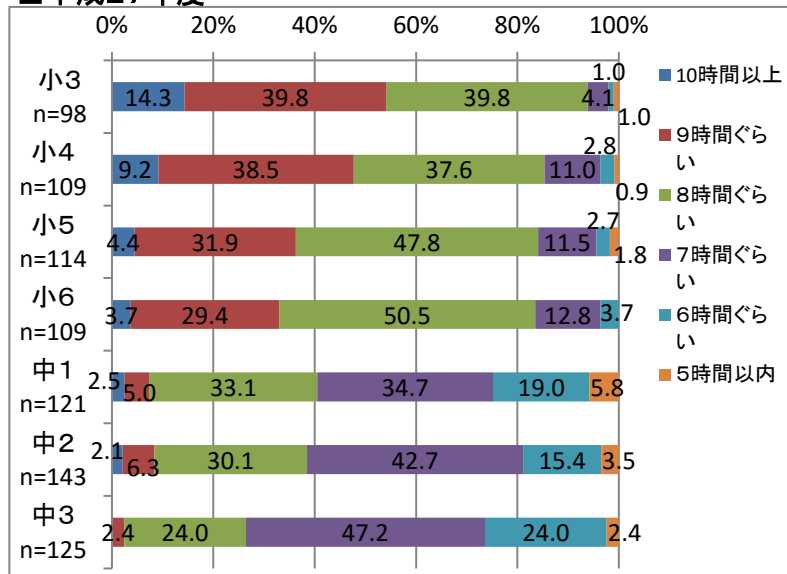
1日の睡眠時間に関しては、

小学生は、8時間以上眠っている割合が増加している。

中学生の睡眠時間は、各学年とも少しずつ短くなっている。

5時間以内しか眠っていない中学生が増加し、町全体で2.3%いることが心配である。

■平成27年度

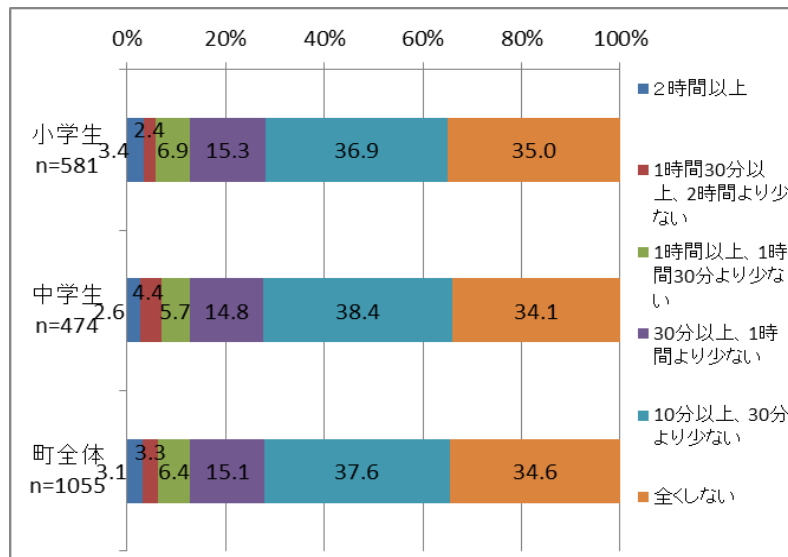
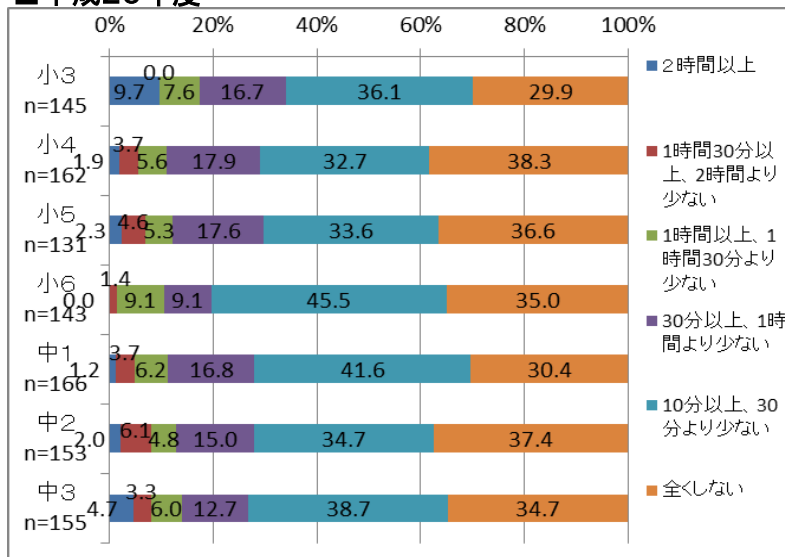


小学生は「早寝早起きで適切な睡眠時間」と、良い傾向が見られる。

中学生は睡眠時間が減少傾向にあり、起きている時間の計画的な有効活用や、基本的な生活習慣を身につけさせることが課題である。

(6) あなたは、学校がある日、1日あたりどのくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)

■平成20年度



1日の読書時間に関しては、

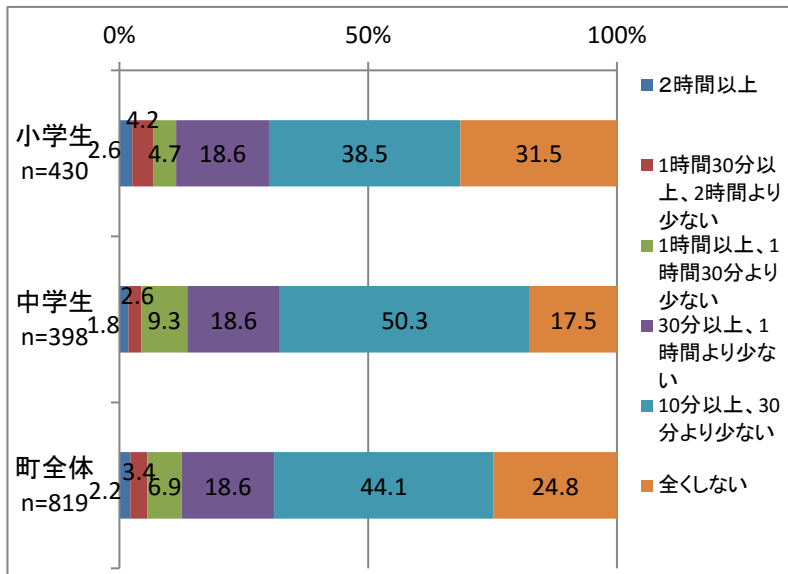
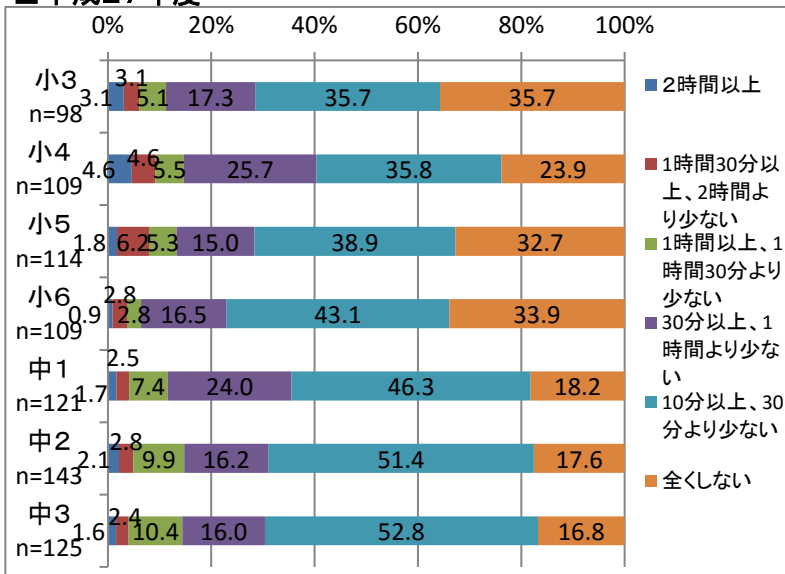
「全く読書をしない」割合は減少し、小学生・中学生ともに読書の時間は増加している。

学校での読書時間設定など

の取り組みにより、読書をする割合が増加し、良い傾向となっている。

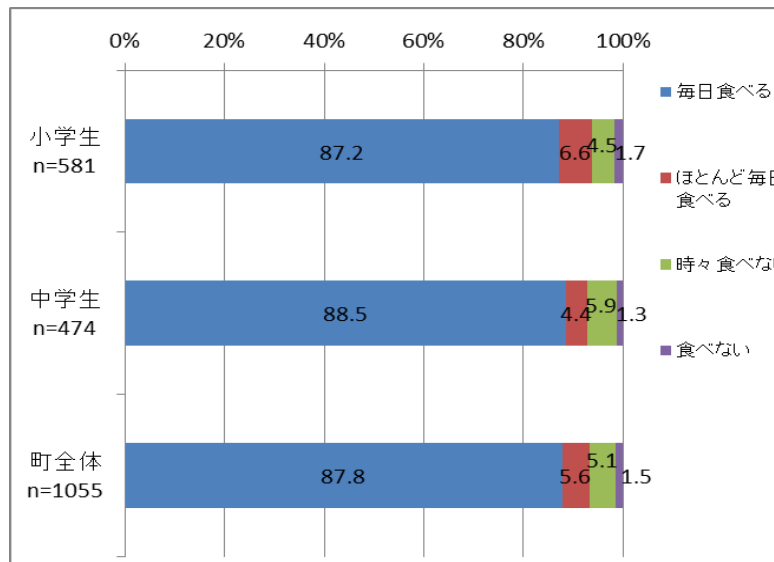
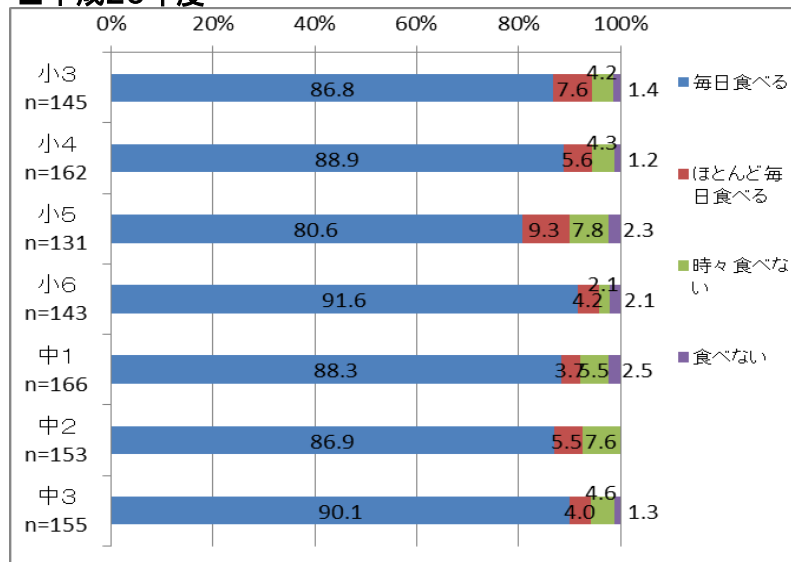
読書活動の推進は、引き続き行っていく意義がある。

■平成27年度



(7) あなたは、学校がある日、朝ごはんをきちんと食べていますか。

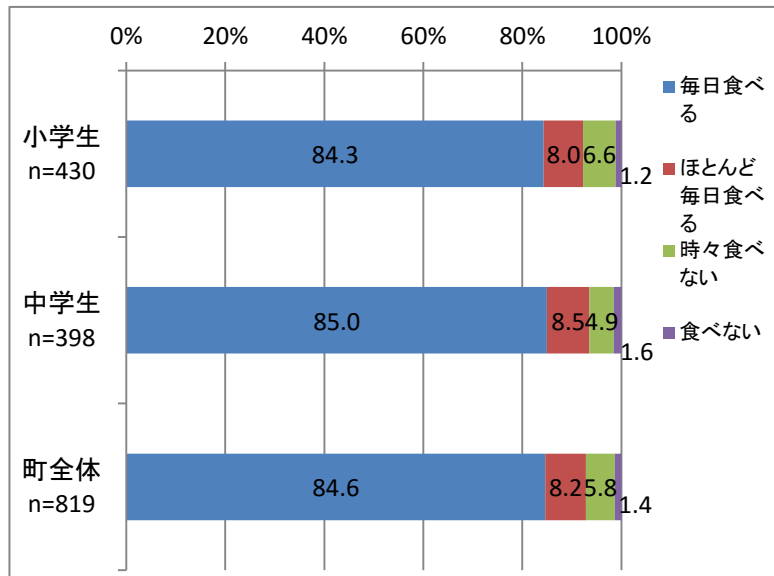
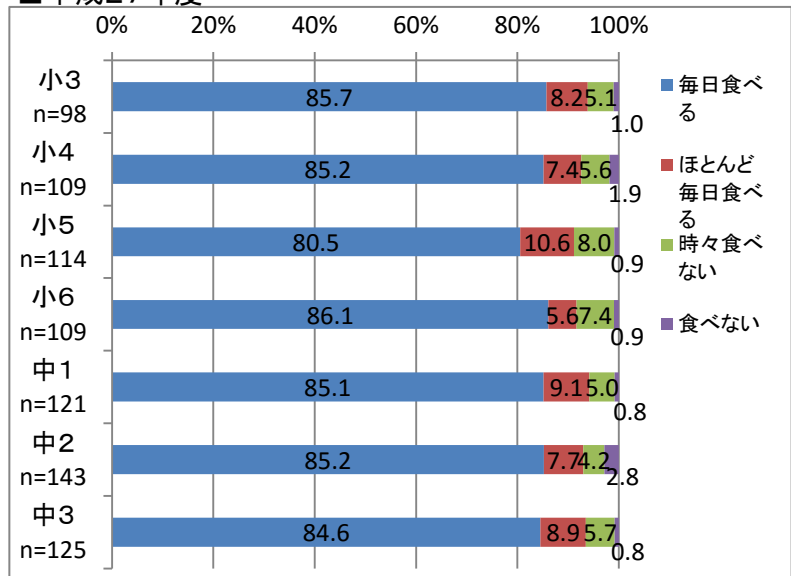
■平成20年度



朝ごはんに関しては、

朝ごはんを「毎日食べる・ほとんど食べる」割合は、町全体では変化がないが、中学生は7年前より割合が増えている。

■平成27年度



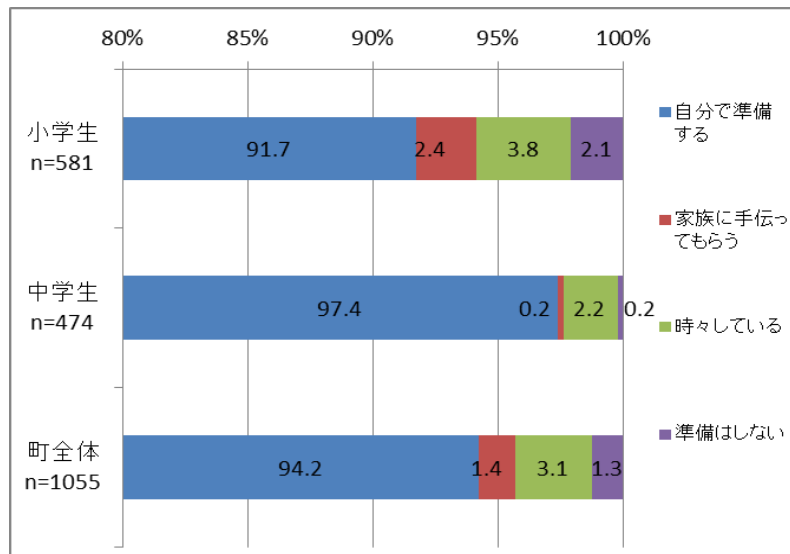
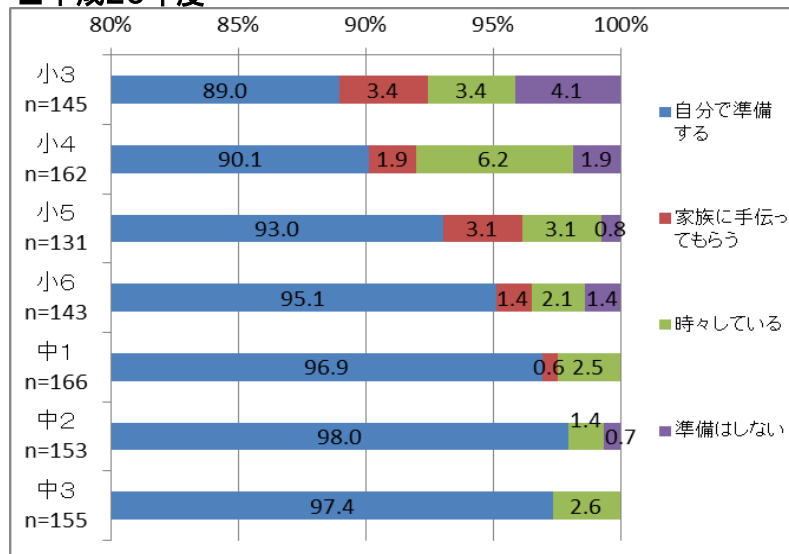
「食べない」率がゼロにならないことが残念である。

睡眠時間が5時間以内の中学生が増加していることと、関係がありそうである。

「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底が必要である。

(8) 学校へ行く前までに、教科書や学習用具の準備をしていますか。

■平成20年度

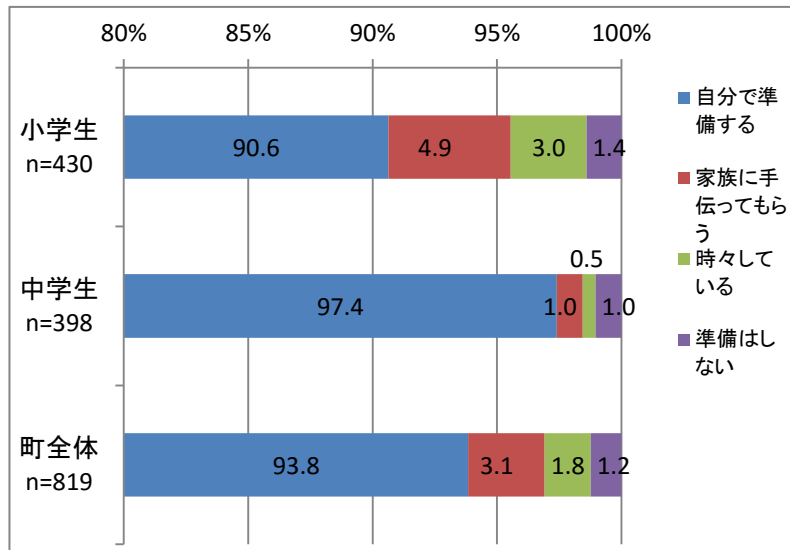
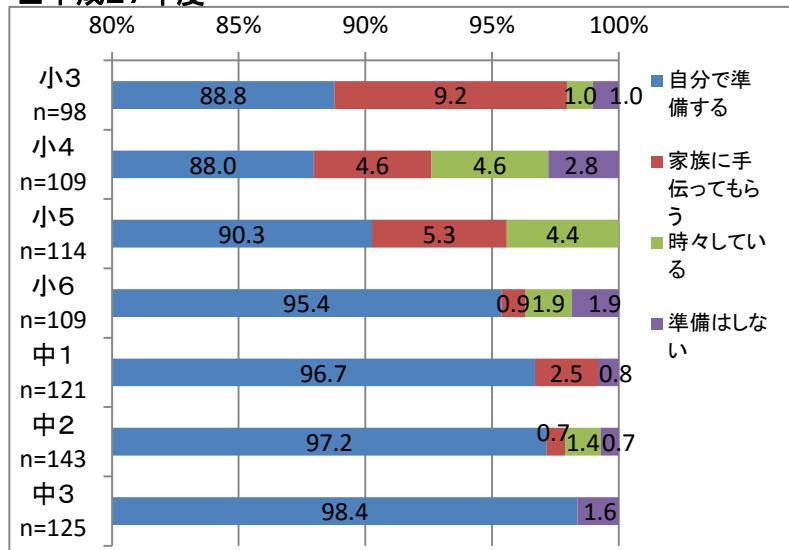


教科書や学習用具の準備に関しては、

9割以上の児童生徒が教科書や学習用具を自分で準備している。

家族の協力が得られていることがわかる。

■平成27年度



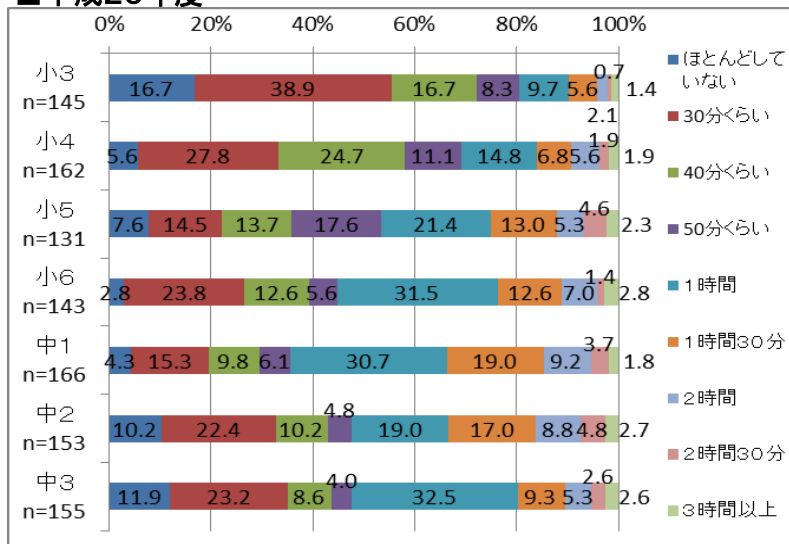
中学生で家族に手伝ってもらっている生徒がいるため、自立できるようにしていくことが課題である。

準備を全くしていない子がいることが気になる。

3 あなたの家での学習について質問します。(1)～(6)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

(1) 学校のじゅぎょうのほかに、学校がある日、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか。学習じゅくや家庭教師について勉強した時間も入れてください。(習字やそろばん、水泳などのおけいごとは除く。)

■平成20年度

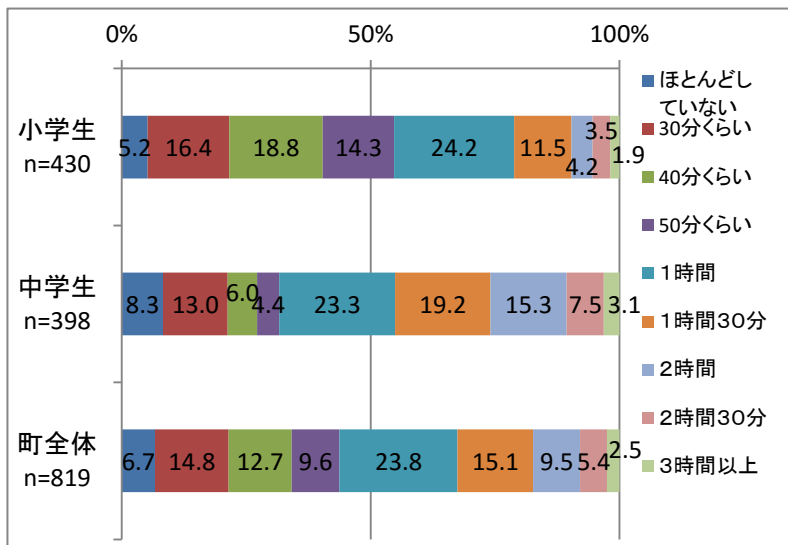
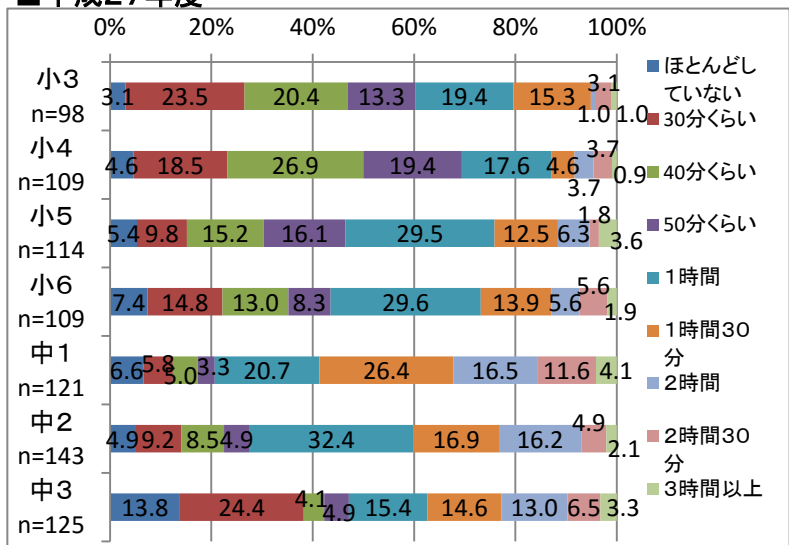


家庭学習時間に関しては、

家で勉強を「ほとんどしていない」子が減少している。

1時間以上勉強している子が増加している。

■平成27年度



町がすすめている学習時間

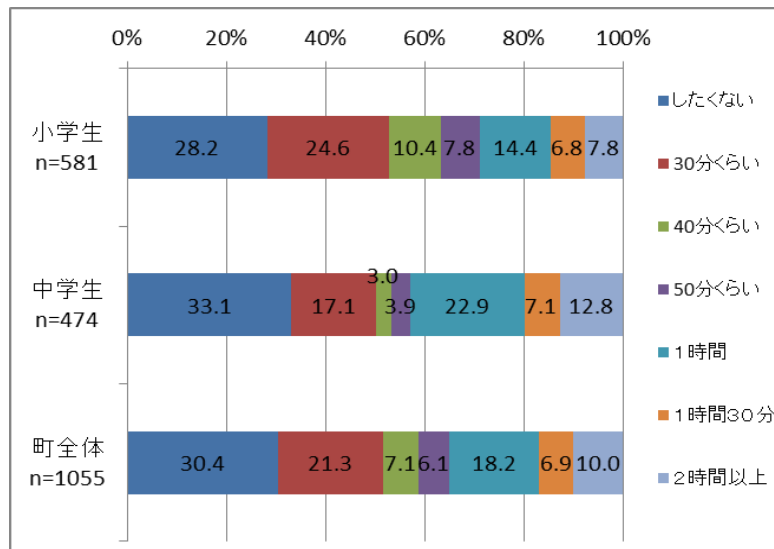
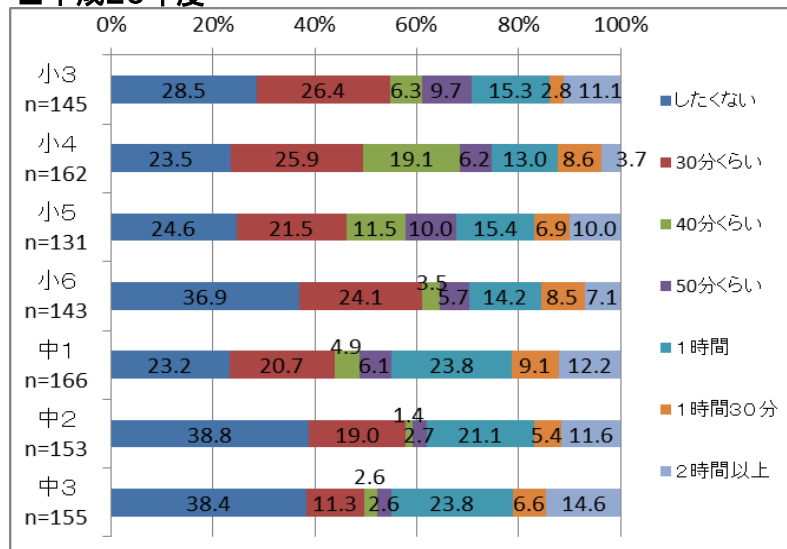
の目安以上に勉強をしている小学生が、増加している。

小学校では、目安の時間を意識して学習時間を確保しているようだ。

※学習時間の目安
小学校一学年×10分
中学校一現在は定め無し

(2) あなたが、お家で学習したい時間はどのくらいですか。

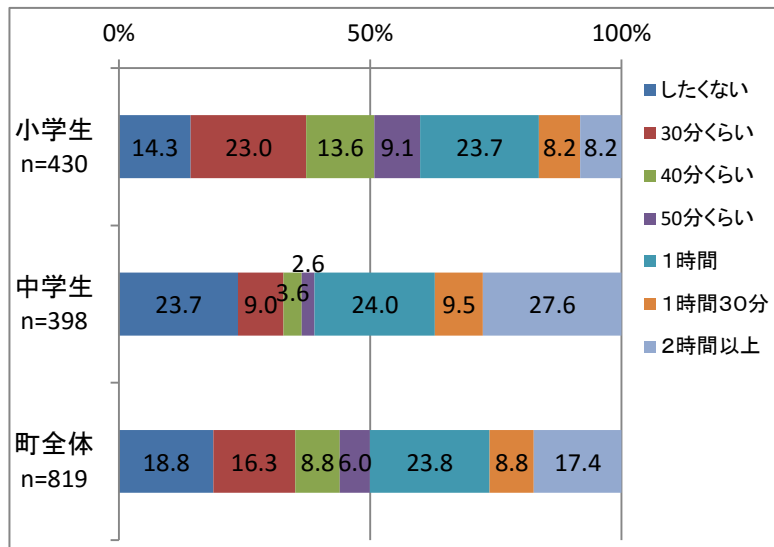
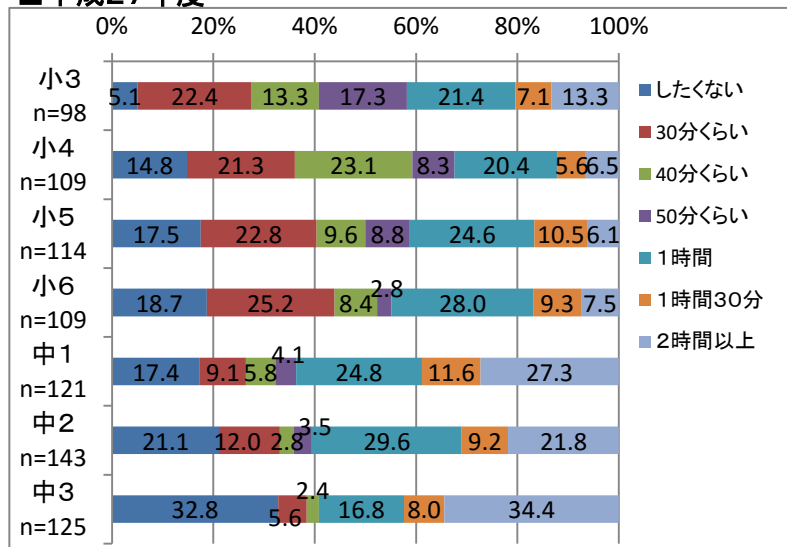
■平成20年度



家庭で学習したい時間に
関しては、

「家で学習をしたくない」子
の割合が減少し、「1時間
以上学習したい」子の割合
が増加している。

■平成27年度

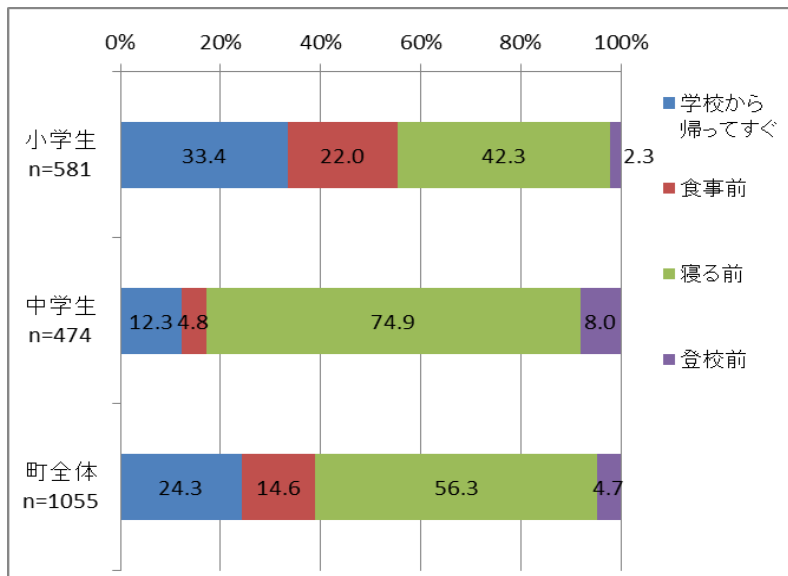
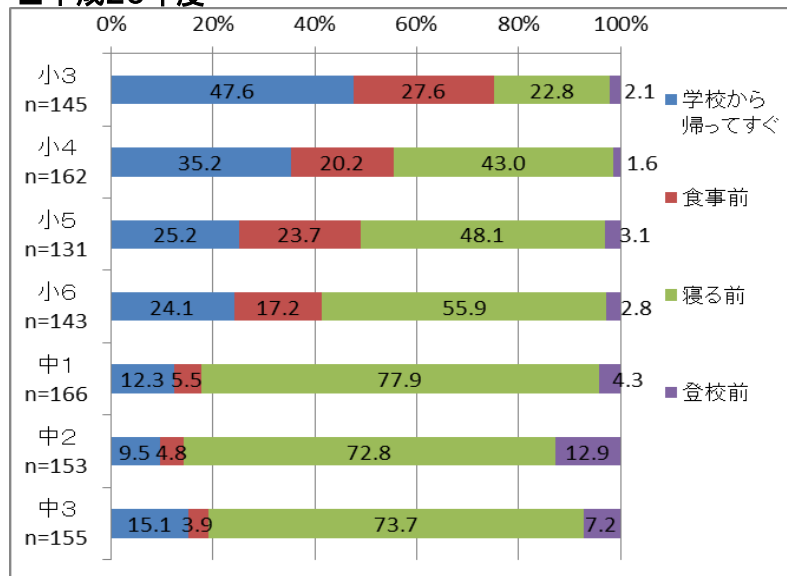


中学3年生の、「2時間以上
学習したい」という生徒の割
合が多い。

前頁(1)の学習時間調査
結果で、実際に2時間以上
学習している生徒の割合は
これより少ないが、意欲が
感じられる。

(3) あなたは、いつ家で勉強していますか。

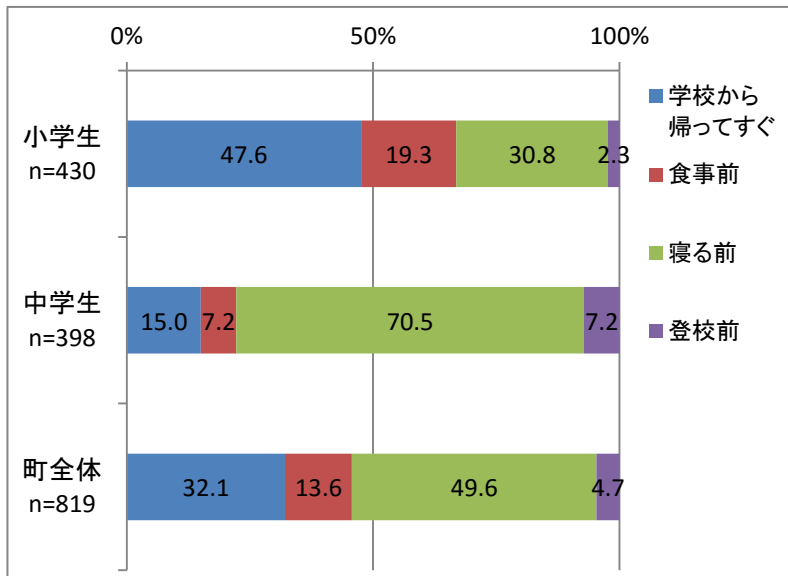
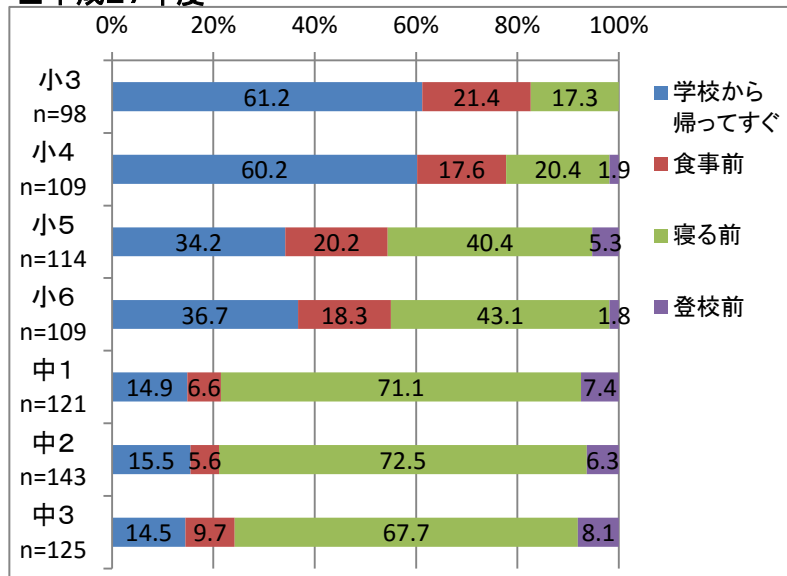
■平成20年度



いつ家庭学習をするかに
関しては、

学校から帰ってすぐに勉強
をする子は、小学3・4年生で
大幅に増加している。食事前
と合わせると、約8割ほどいる。
小学5・6年生は寝る前に勉強
をする子が多いが、7年前よ
りは減り、帰ってすぐやる子
も多くなってきた。

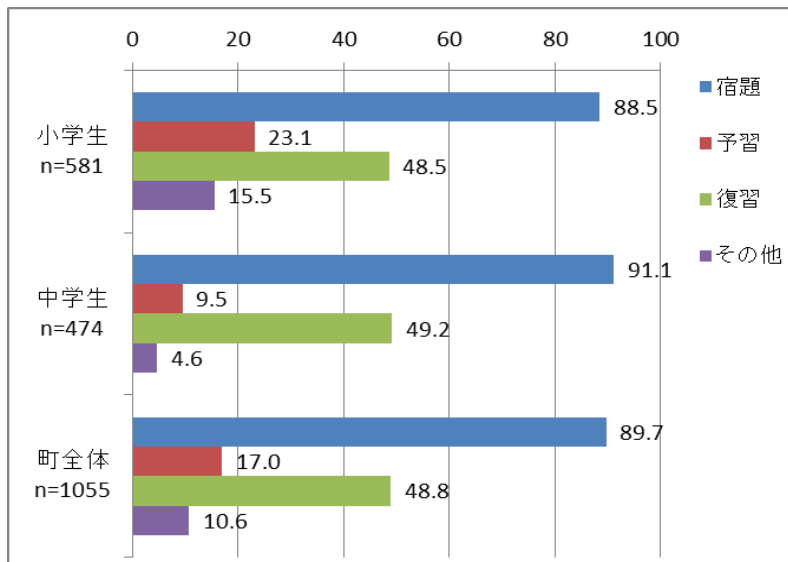
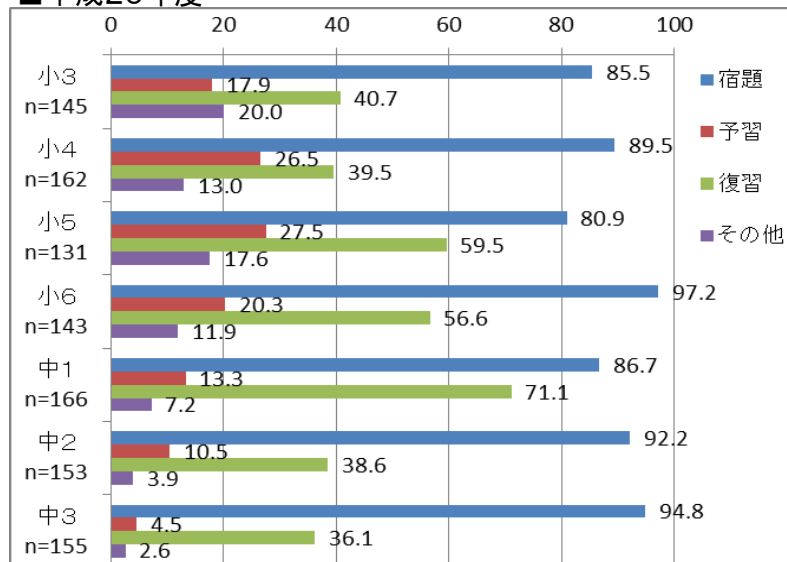
■平成27年度



部活動や習い事をしている
子が増え、帰宅後すぐに勉
強せざるを得ないのではな
いか。

(4) 家では、おもにどんな内容を学習しますか。(複数回答)

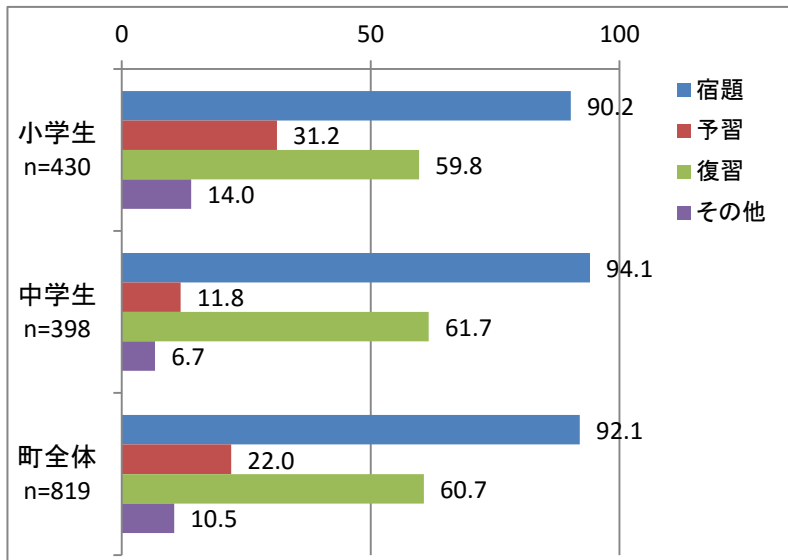
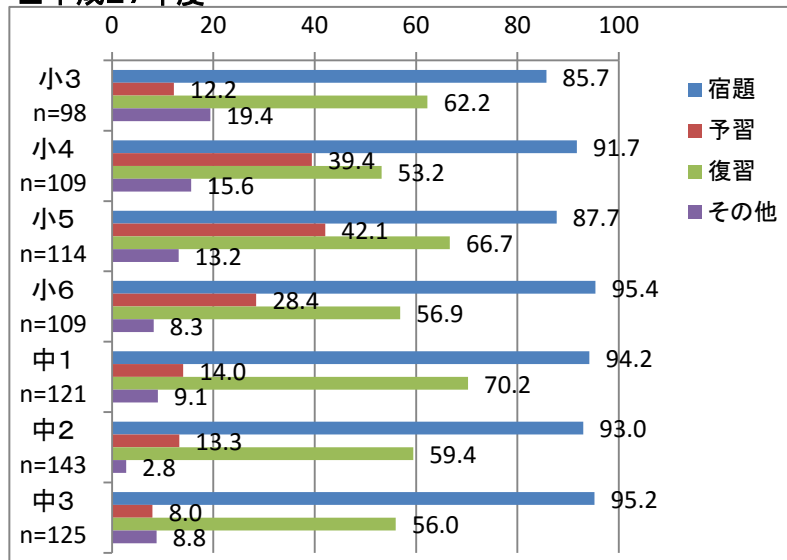
■平成20年度



家庭学習の内容に
関しては、

小・中全学年ともに宿題を
中心に家庭学習をしている
が、7年前よりその傾向が
強くなった。

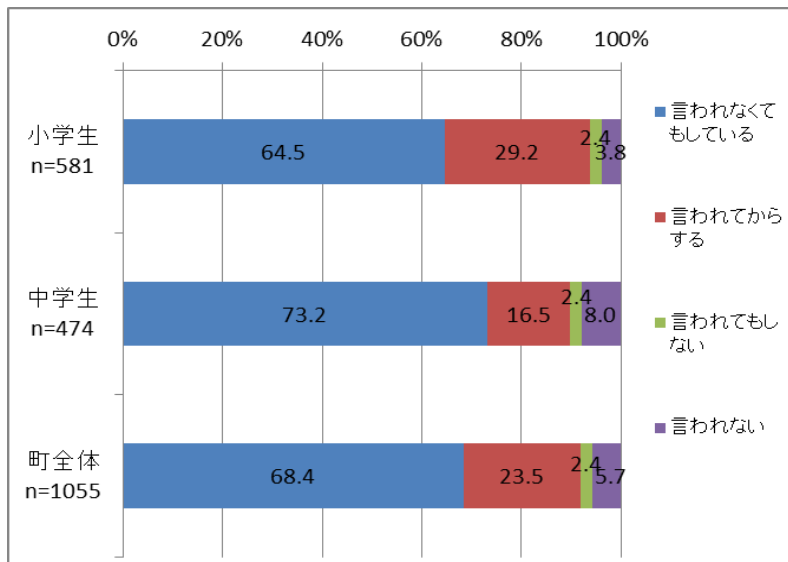
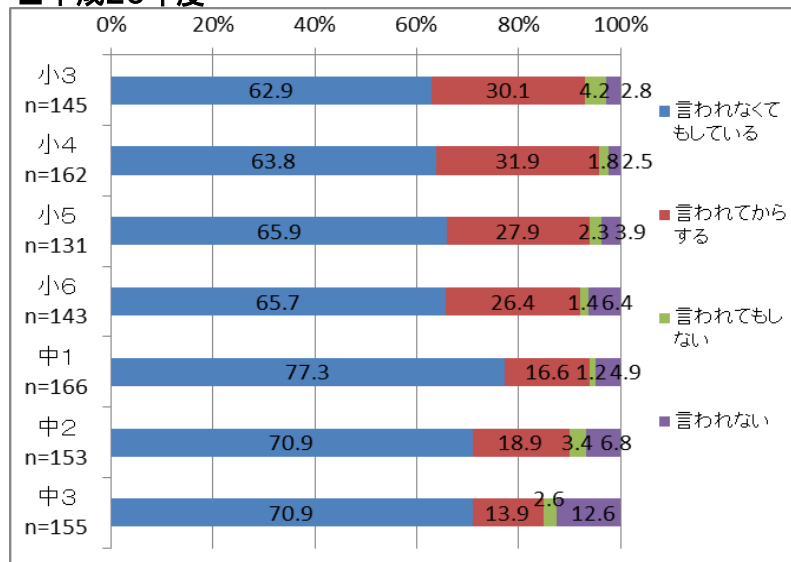
■平成27年度



一人勉強の定着が図られた
ためか、復習をする割合が
増加している。

(5) あなたは、お家の人から言われなくても一人で学習に取り組んでいますか。

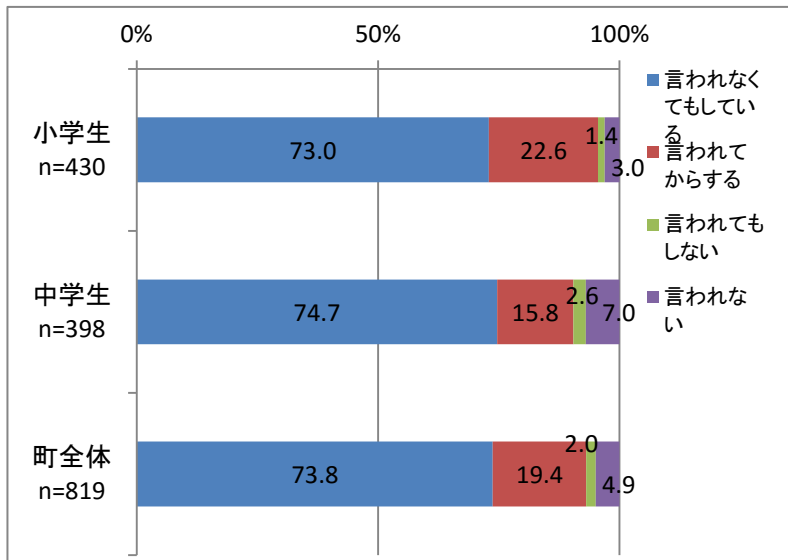
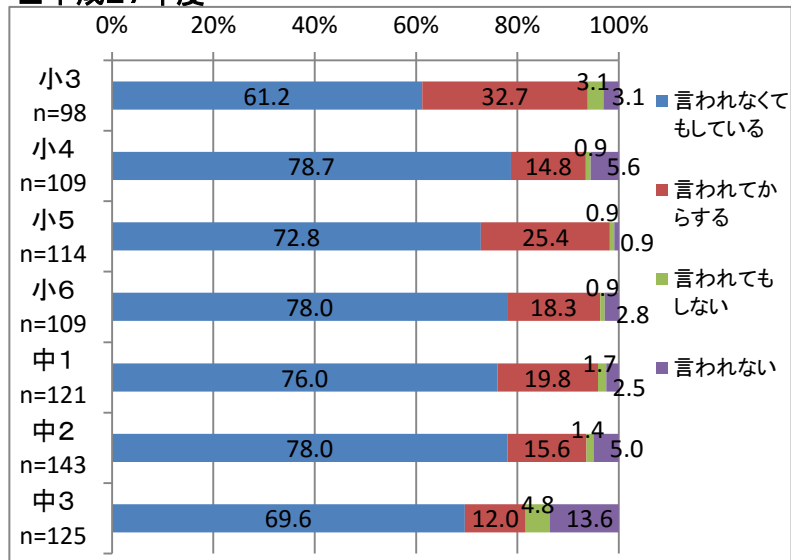
■平成20年度



一人で家庭学習に取り組むかに関しては、

自ら進んで学習をしている
 子が増加している。
 特に小学生が増加してい
 る。

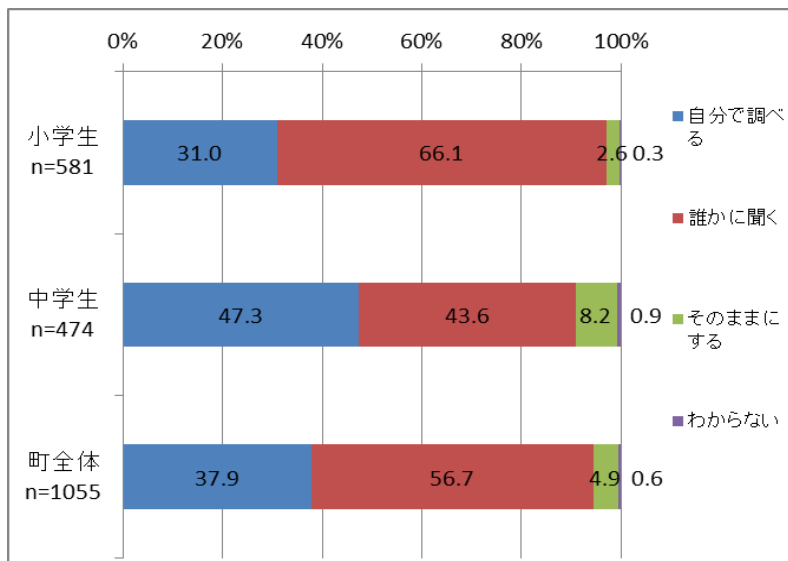
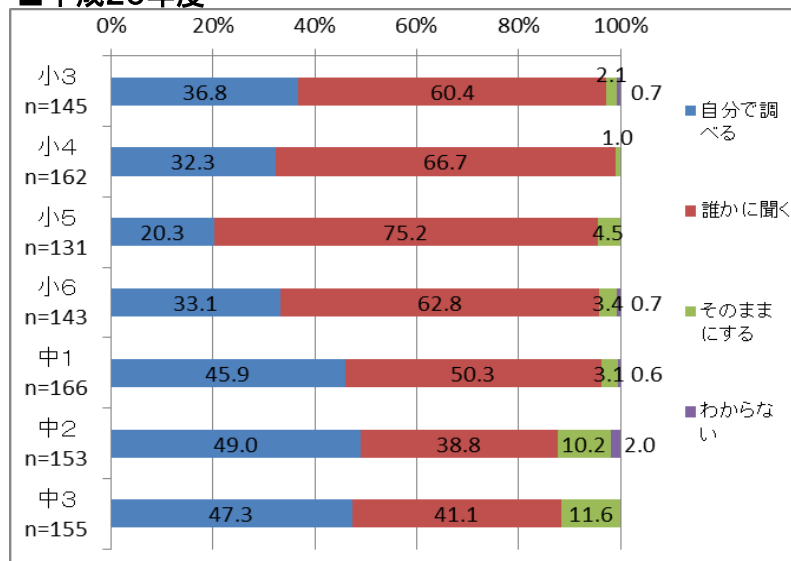
■平成27年度



一人勉強の定着が図られた
 ためか、自ら家庭学習をする
 割合が増加し、良い傾向に
 ある。

(6) 家で学習している時、わからないことがあるとどうしていますか。

■平成20年度



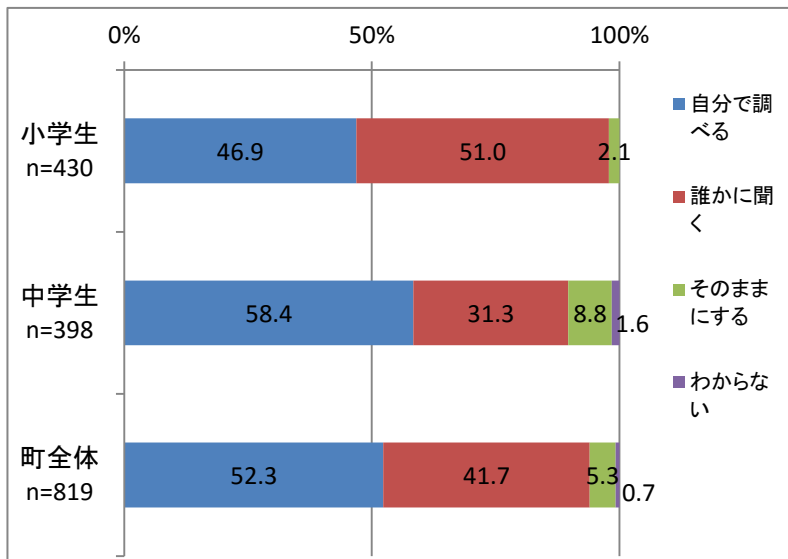
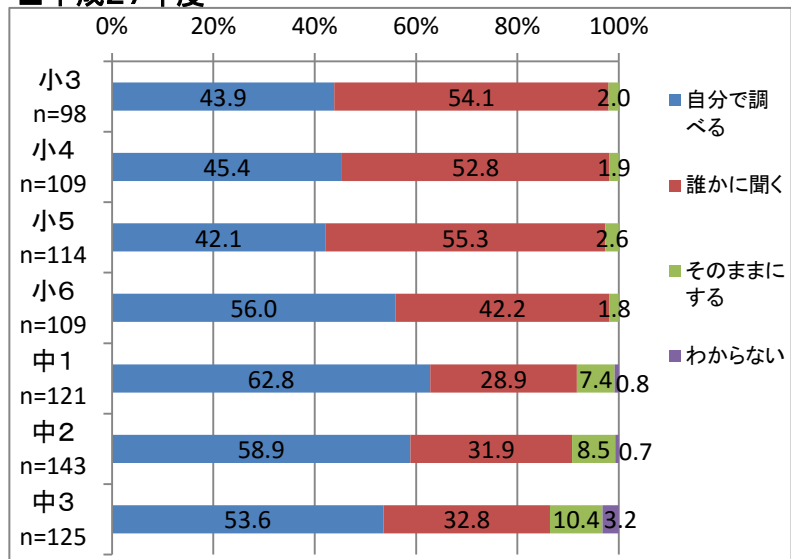
わからないことをどうしているかに関しては、

自分で調べることができる

子が増加している。

7年前よりも、調べられる環境が整った(家庭におけるパソコンの普及等)ためと思われる。

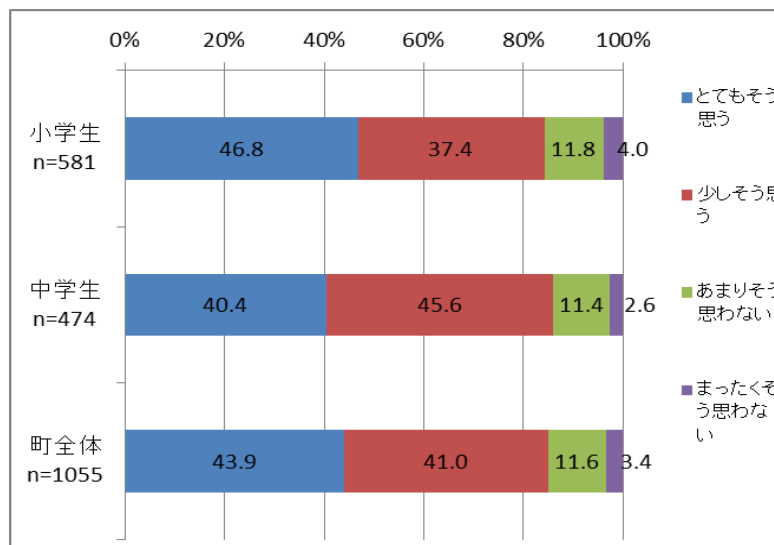
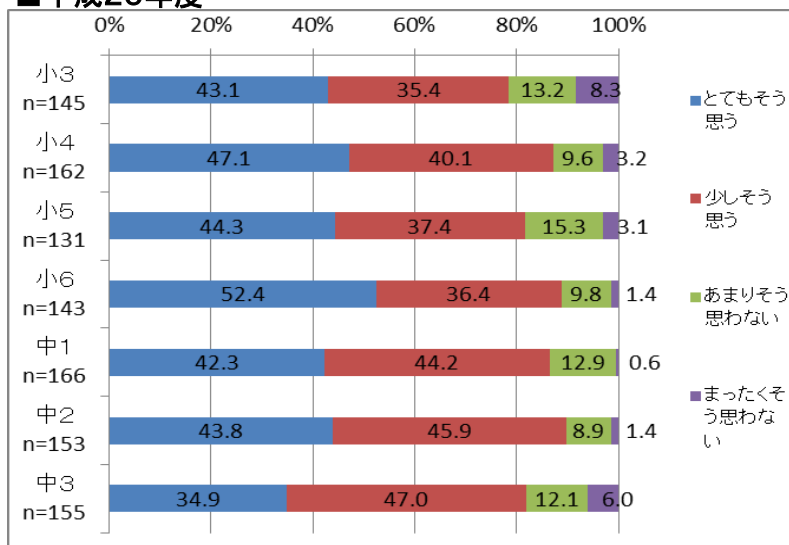
■平成27年度



4 あなたは、なぜ学習(勉強)するのですか。(1)～(8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

(1) 大人になったとき、社会や人の役に立ちたいから。

■平成20年度

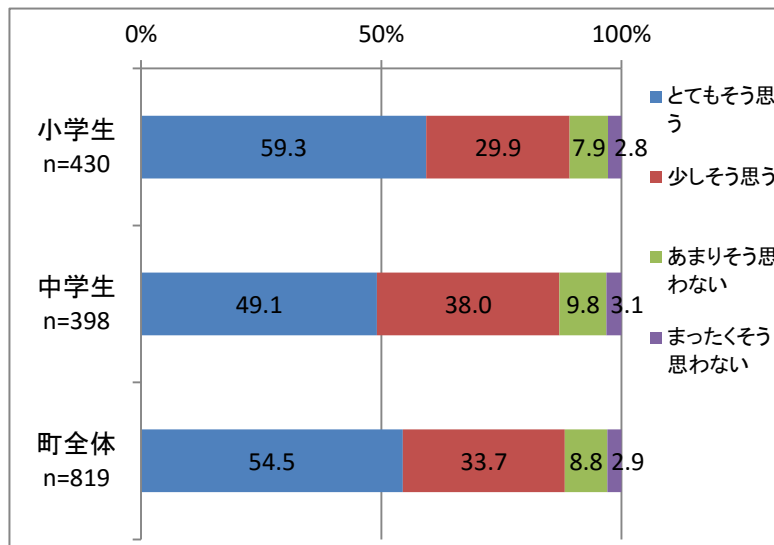
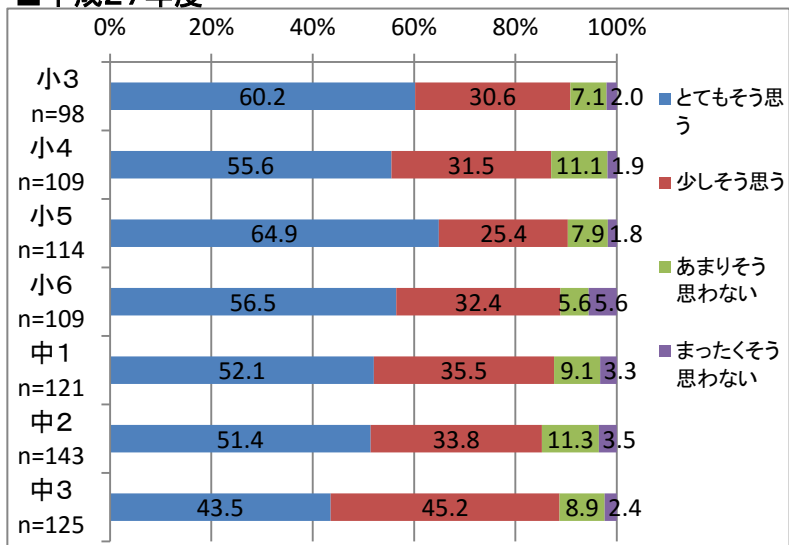


社会や人の役に立ちたいために勉強する に関しては、

全体では、7年前と比べて「とても大切」「少し大切」合わせて、約9割に増加している。

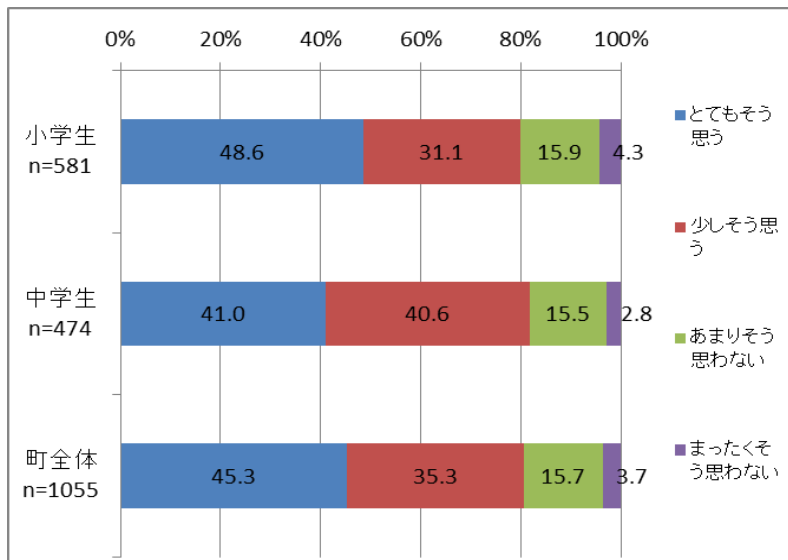
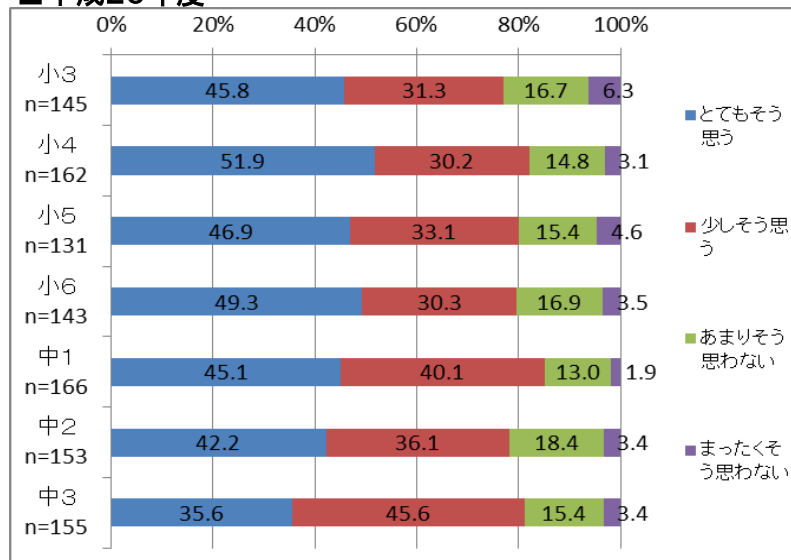
小・中ともに、勉強は将来に役立つという認識が高まってきている。

■平成27年度



(2) いろいろな知識を身につけた人になりたいから。

■平成20年度



いろいろな知識を身につけた人になりたいから勉強するに関しては、

いろいろな知識を身につけたいと思っている割合が、全体的に増加している。

家庭学習の定着により、自

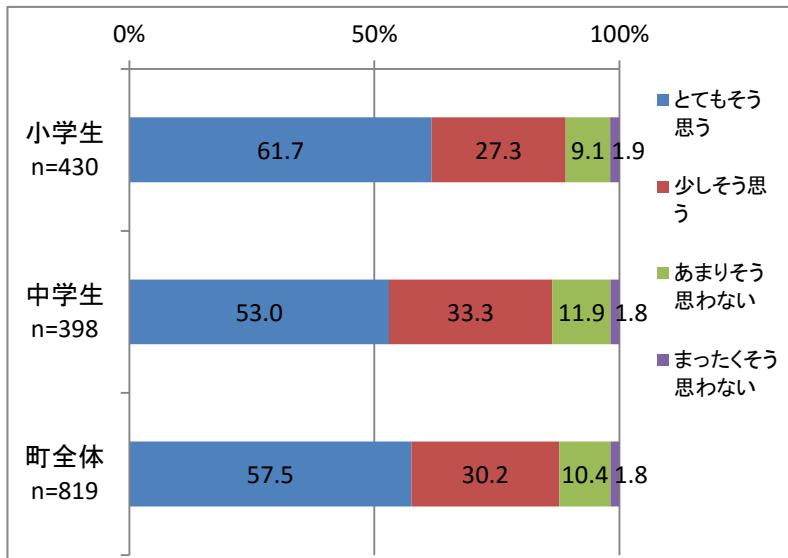
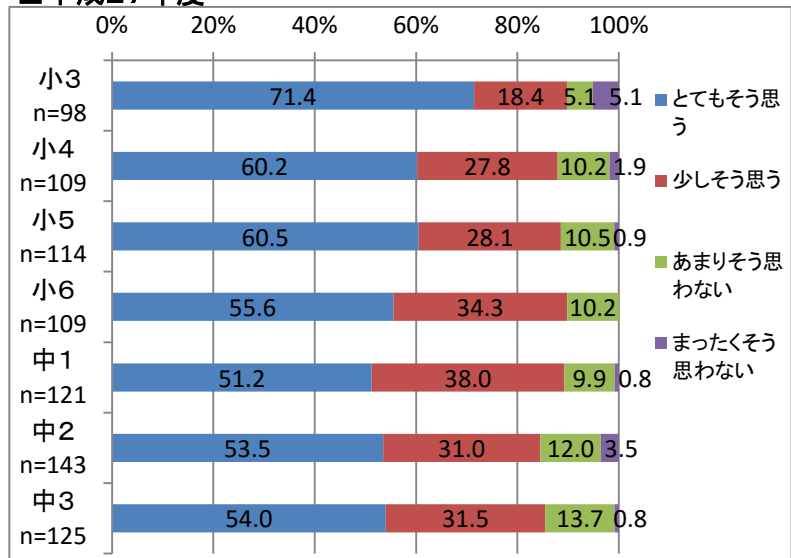
ら進んで学ぶ姿勢が増え、

学習以外の知識習得に自

然と結びついていることが

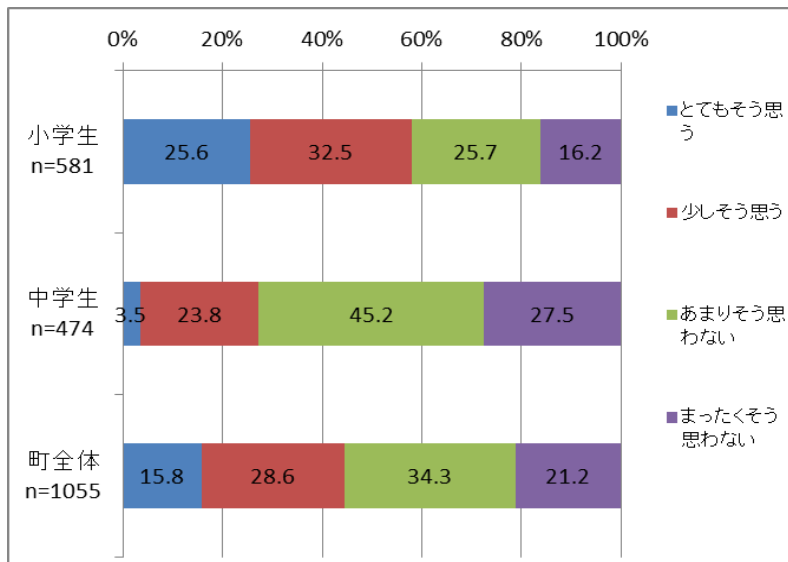
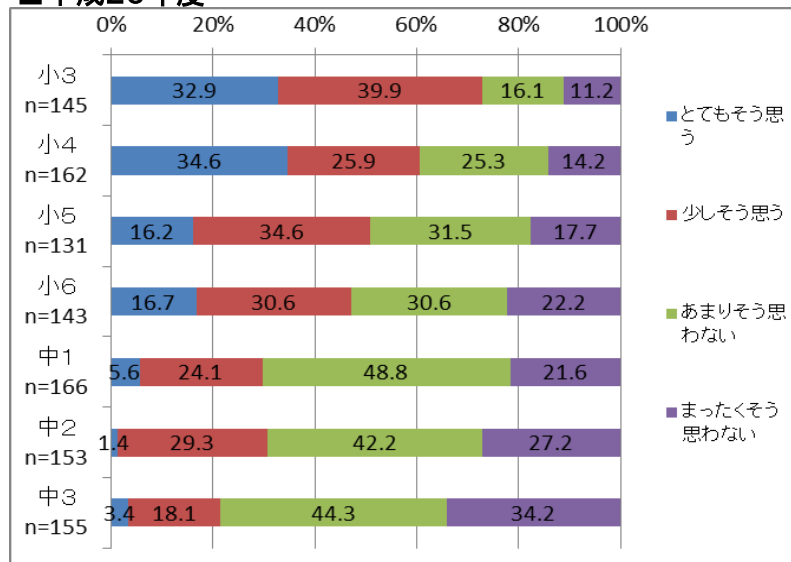
要因と思われる。

■平成27年度



(3) 勉強することが楽しいから。

■平成20年度

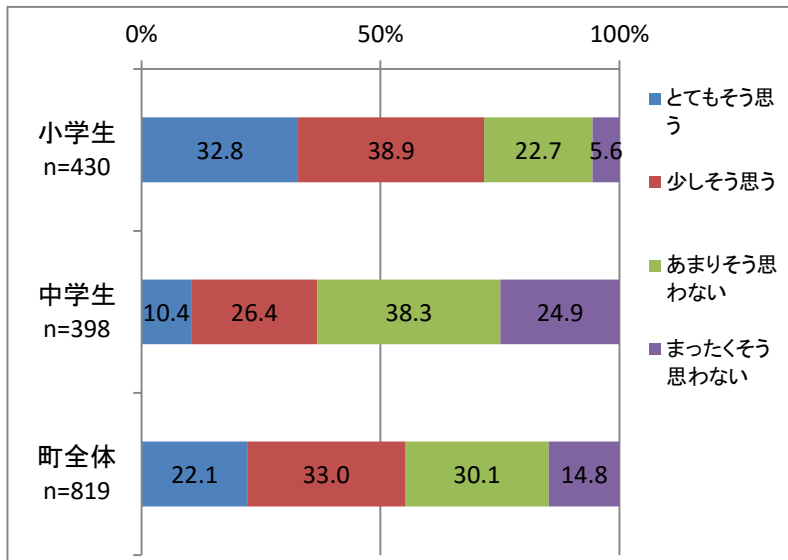
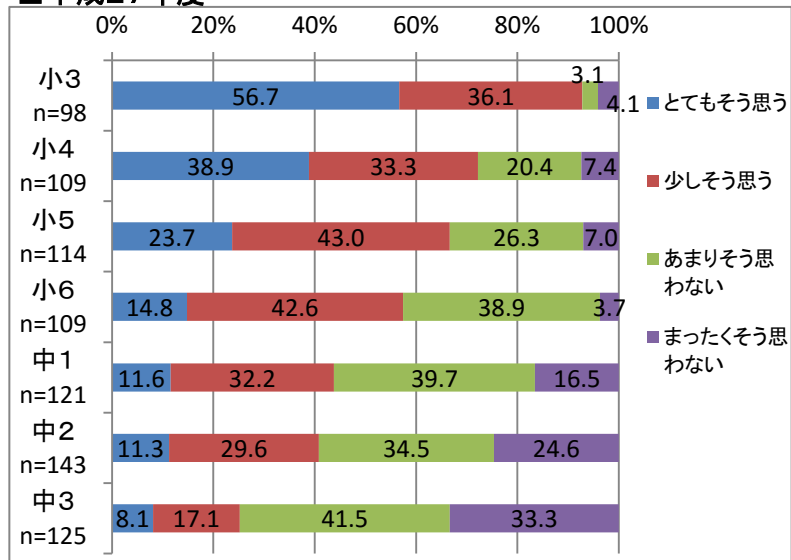


勉強することが楽しいから
に関しては、

小・中全学年において、勉強
が楽しいと思っている割合が
7年前に比べて増加している。

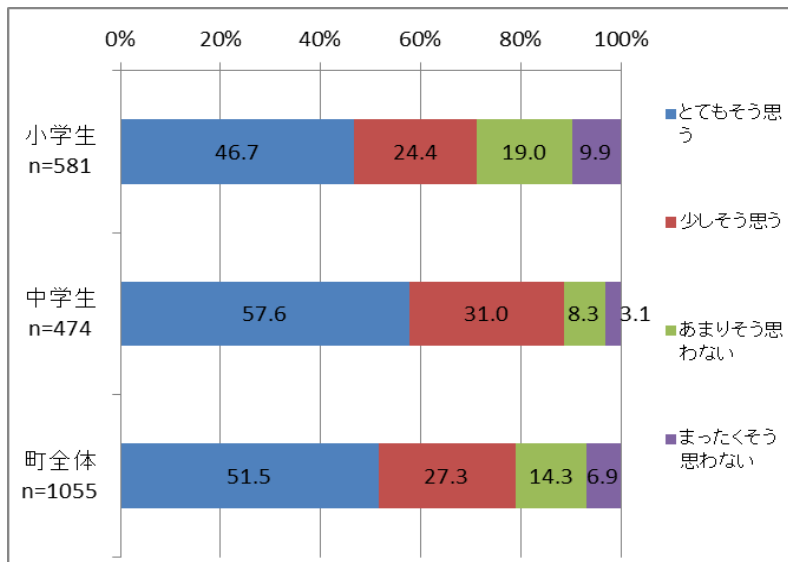
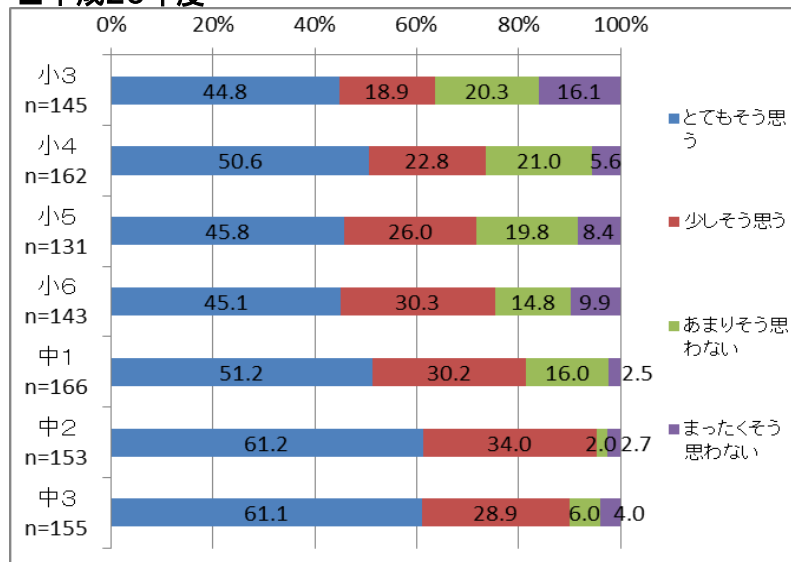
家庭学習の定着により自ら
進んで学ぶ姿勢が増え、知
識の習得が勉強の楽しさに
結びついてきているものと
思われる。

■平成27年度



(4) 希望する高校や大学に行きたいから。

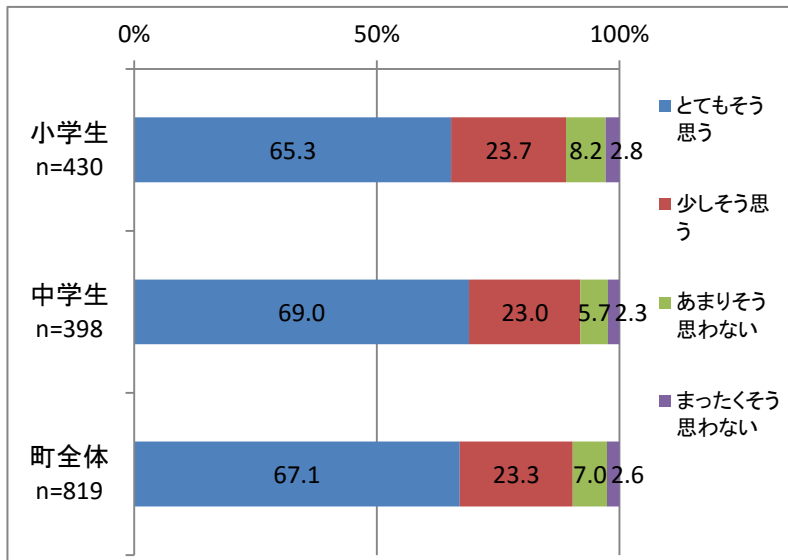
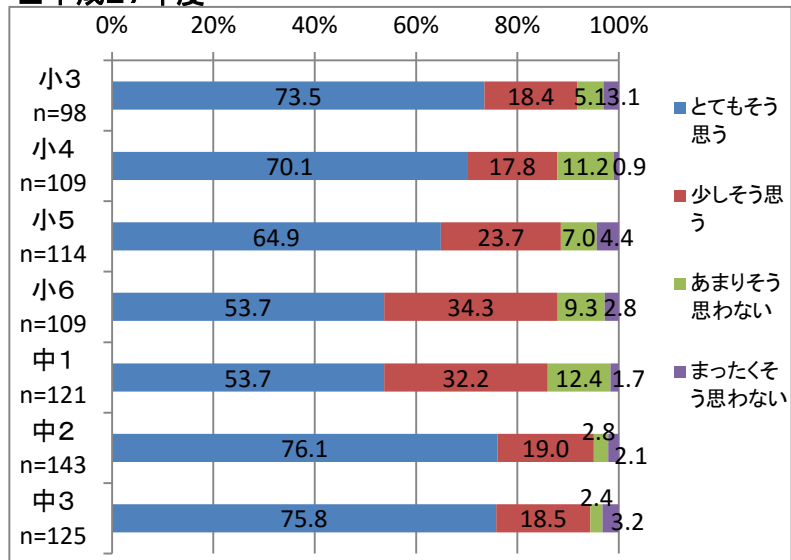
■平成20年度



希望する高校や大学に行きたいから勉強する
に関しては、

小・中ともに9割ほどが「そう思う」と回答しており、7年前よりも受験に対する意識が高くなっている。

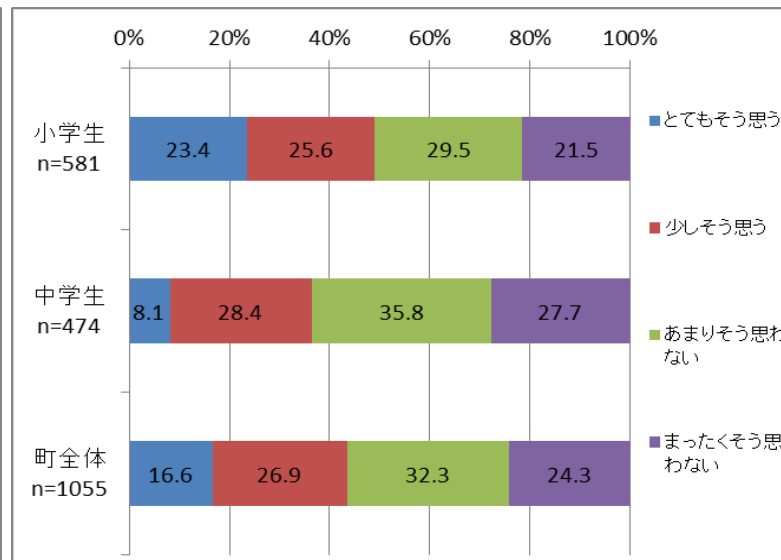
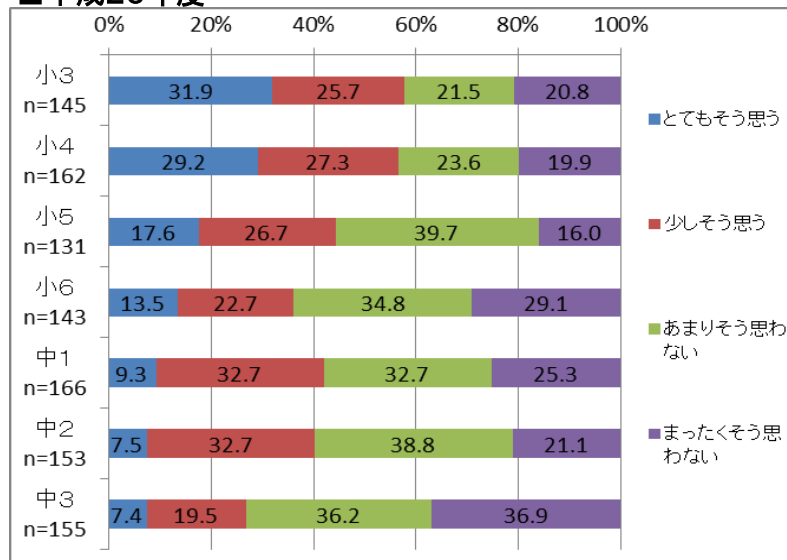
■平成27年度



将来的視野で勉強するようになってきているが、特に受験目前の中学2・3年生にとっては、近い将来のためにも必要なことと捉えているようである。

(5) 親や先生にほめられたいから。

■平成20年度



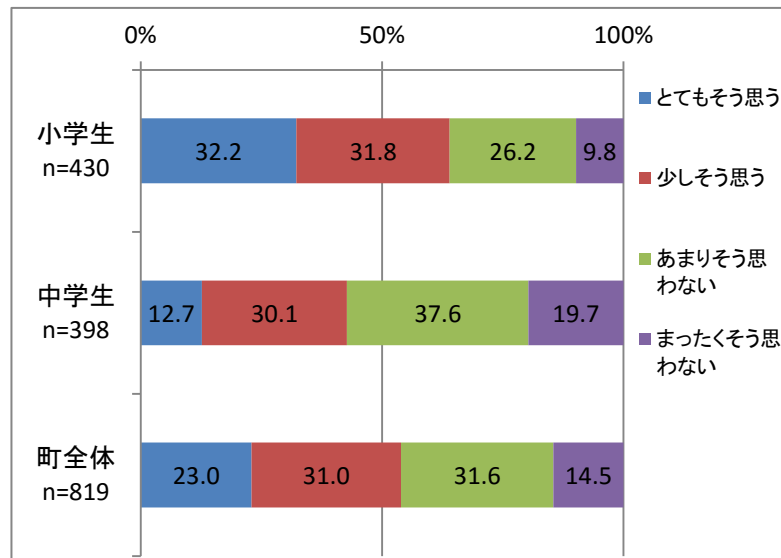
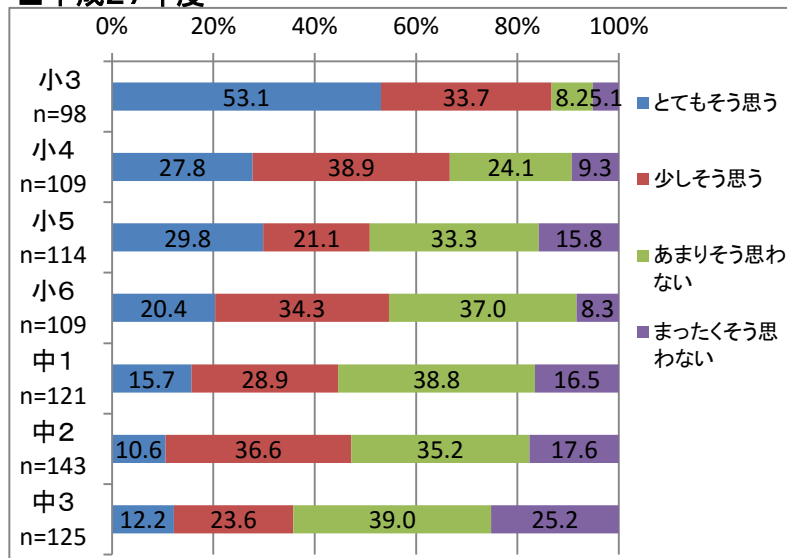
親や先生にほめられたいから勉強する に関しては、

全体的に、親や先生にほめられたくて勉強をするという割合が7年前に比べて増加している。

ほめられたいという意識は高くなっているものの、勉強をする直接の理由になっているとは考えにくい。

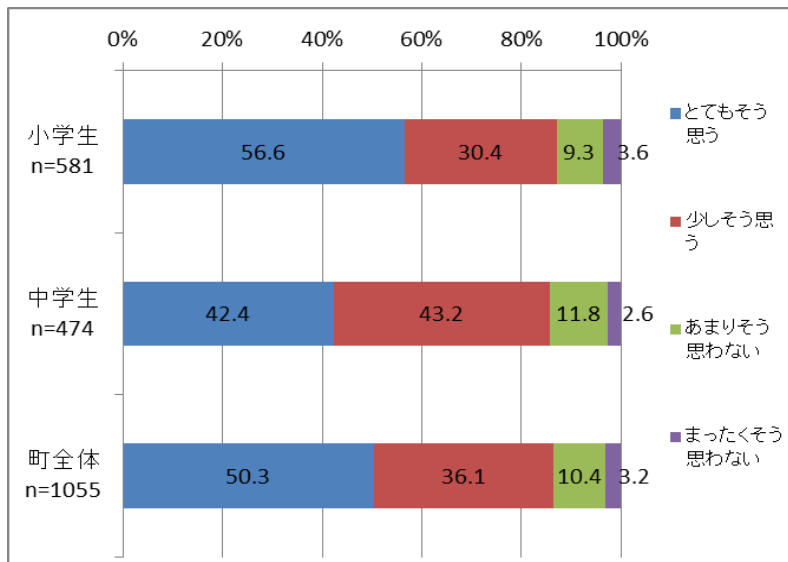
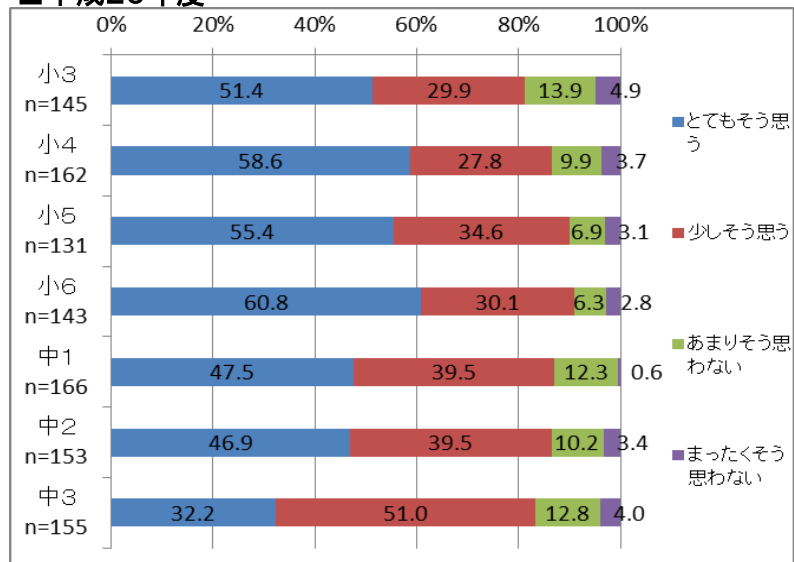
家庭学習の定着により、保護者や教師がチェックやコメントなどで勉強に関わることが、身近になったものと思われる。

■平成27年度



(6) 勉強で得た知識は、いずれ仕事や生活の役に立つと思うから。

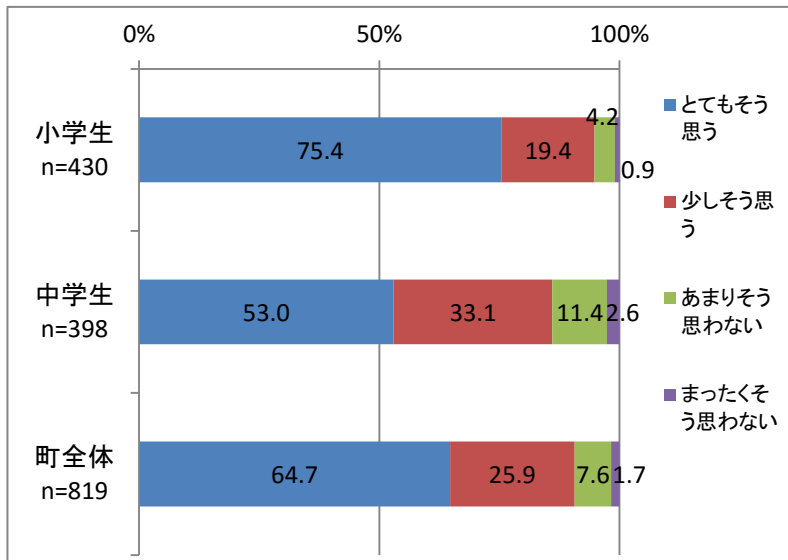
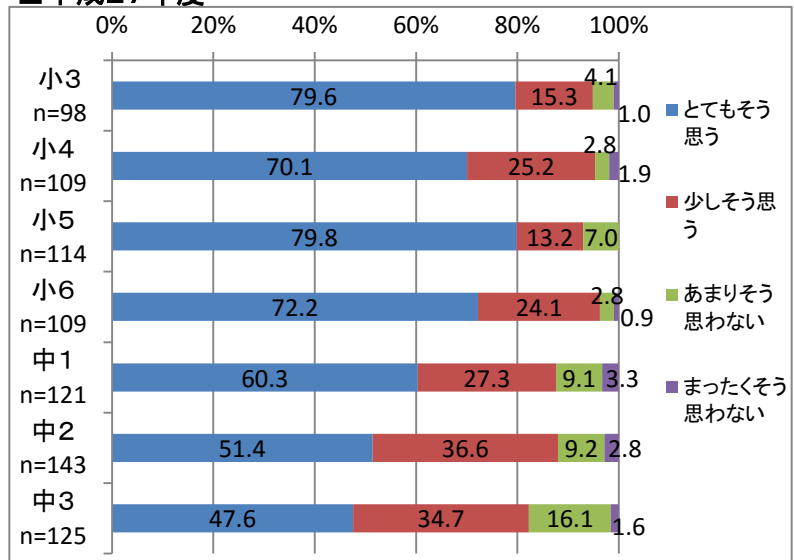
■平成20年度



勉強で得た知識が、いずれ仕事や生活に役立つと思うから勉強する に関しては、

小・中全学年で、「そう思う」割合が増加し、将来的な視野に立って勉強していることがうかがえる。

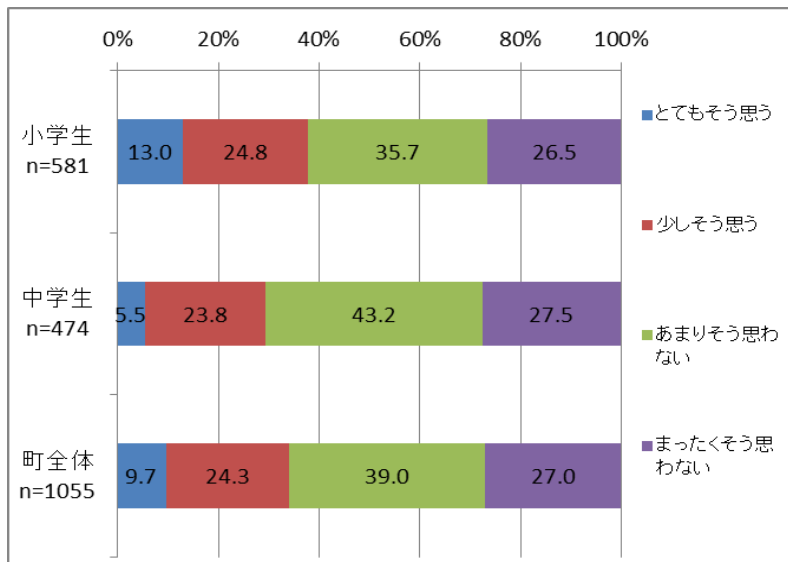
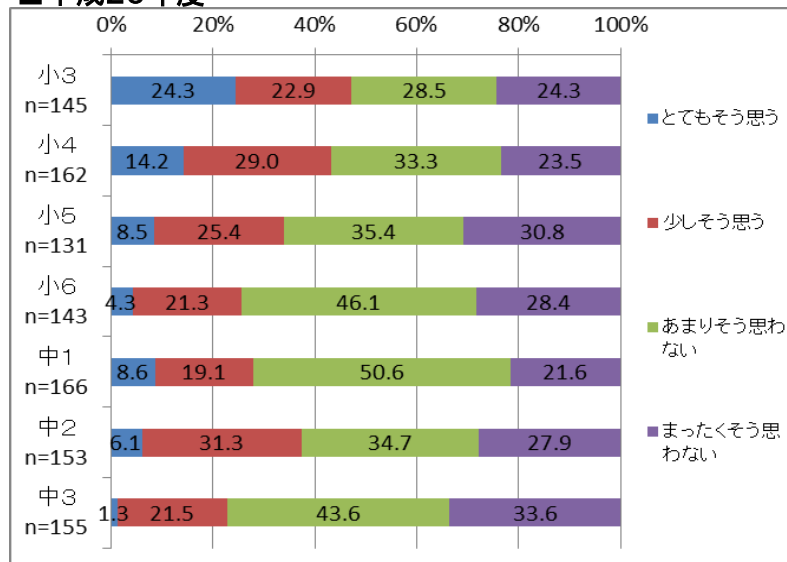
■平成27年度



家庭学習の定着により自主的に学ぶ姿勢が増え、知識の習得とともに、勉強と将来的視野との結びつきを感じられるようになったものと思われる。

(7) 成績が良ければ、仲間から尊敬されると思うから。

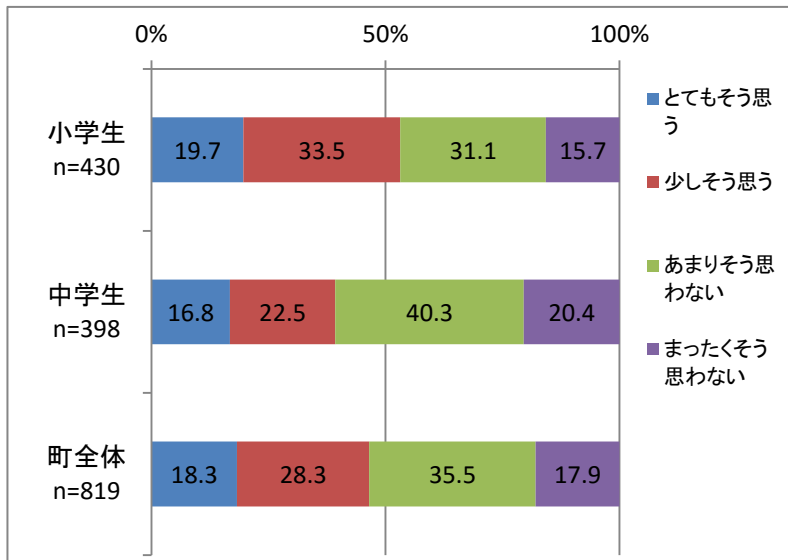
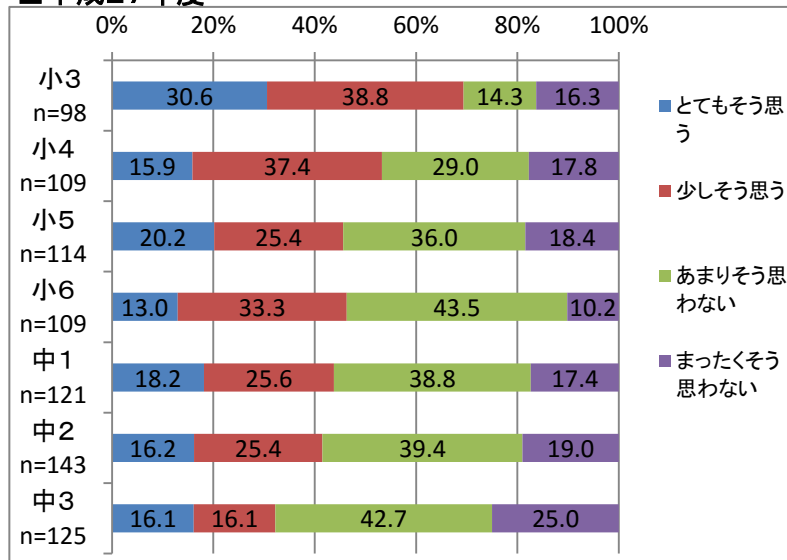
■平成20年度



成績が良ければ、仲間から尊敬されると思うから勉強する に関しては、

7年前に比べると、小・中全学年において「そう思う」割合は増加しているが、第一の目的にはなっていないと思われる。

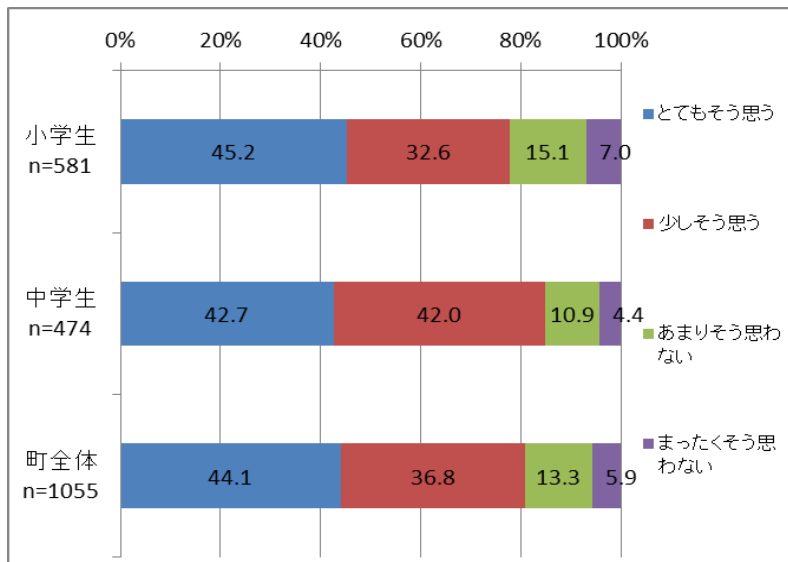
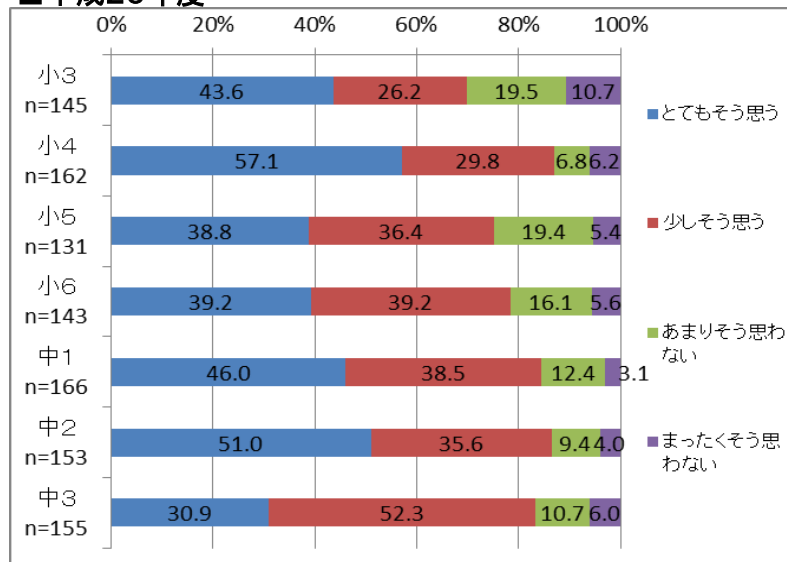
■平成27年度



中学生での増加が大きいことから、早い段階での進路計画の指導などにより、「勉強を頑張る＝将来の夢・目標への努力」との意識が高まっているものと思われる。

(8) 大人になった時、いい仕事につけるから。

■平成20年度

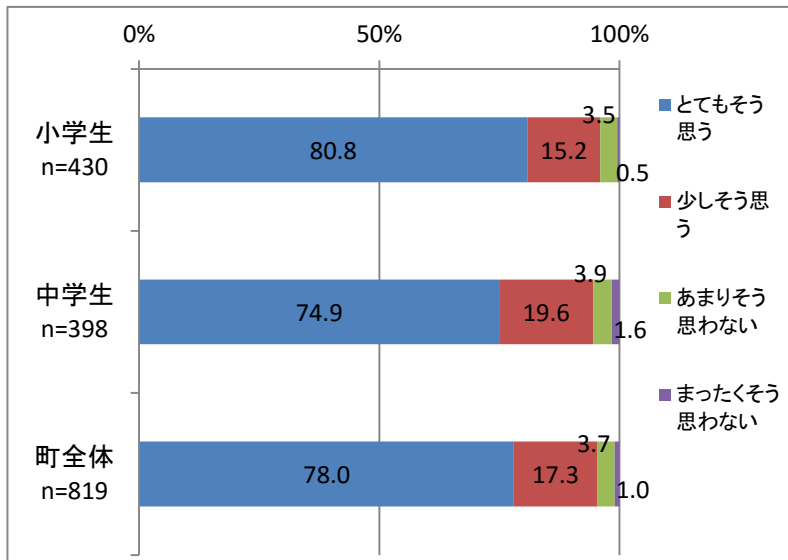
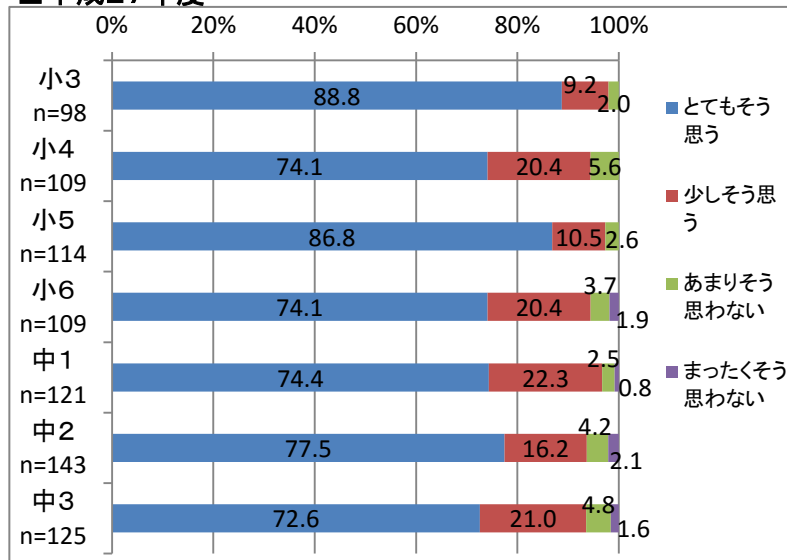


大人になった時、いい仕事につけるから勉強する に関しては、

「そう思う」割合が小・中ともに9割を超え、この設問からも、将来的な視野に立ち勉強をしていることがわかる。

家庭学習の定着や、早期の進路計画などから、勉強と将来的視野との結びつきが高まっているものと思われる。

■平成27年度



【設問4 (1)～(8) の総評】

キャリア教育の功が奏しているのか、将来を見据えた学習に取り組んでいることがわかる。学習を嫌なものとして捉えるのではなく、楽しんで取り組んでいるのがうかがえる。